

高等学校国語科における 「書くこと」の系統的な指導計画の研究

— 「論理的な文章を書く力」に着目して —

令和7年度 神奈川県立総合教育センター
長期研究員 小野 かおり(県立厚木北高等学校)

【研究の概要】

所属校の生徒に「論理的な文章を書く力」を身に付けさせることを目指し、「高等学校国語科において、生徒が『論理的な文章を書く力』を身に付けるためには、どのような段階を踏めばよいのだろうか」という問いを立て、系統的な指導について研究を進めた。まず、中学校段階と高等学校段階の「書くこと」の指導事項の系統性を分析し、学習段階の6ステップ表を作成した。次に、この表を系統的な指導の実現に向けて活用することを考え、指導事項の具体化や授業時数の記入欄を設ける等の要素を加えて「『書くこと』の系統的な指導計画表」(基本型)を作成した(表3)。これは、教員が協同的に生徒を育成するための手立てとなる。さらに、所属校での研究授業等から生徒の実態把握を行い、そこで得た情報を表3に反映し、所属校において想定される活用例を示した(表3¹)。この作業により系統的な指導を検討する際の具体的な運用を提示できた。

今後は、表3を手立てとする実践を重ね、カリキュラム・マネジメントの視点を持った言語能力の育成への有用性を明らかにしていく。

【目指す姿】

「論理的な文章を書く力」を身に付ける
自分の言葉で考えを表現し、自己実現に向かうことができる

学習意欲の継続・進路活動への応用・他者との関わりの充実

【研究テーマ】

高等学校国語科における「書くこと」の系統的な指導計画の研究
-「論理的な文章を書く力」に着目して-

【研究の問い】

高等学校国語科において、生徒が「論理的な文章を書く力」を身に付けるためには、どのような段階を踏めばよいのだろうか

【研究の方法】

① 中学校段階・高等学校段階の
「書くこと」の指導事項の系統性を分析

② 高等学校における学習段階を
中学校段階を含めた6つのステップに整理

| 学習段階 | 中学校段階 | 高等学校段階 | 高等学校段階 |
|------|------------|------------|------------|
| 基礎 | 基礎的な文章の書き方 | 基礎的な文章の書き方 | 基礎的な文章の書き方 |
| 発展 | 発展的な文章の書き方 | 発展的な文章の書き方 | 発展的な文章の書き方 |
| 応用 | 応用的な文章の書き方 | 応用的な文章の書き方 | 応用的な文章の書き方 |
| 創造 | 創造的な文章の書き方 | 創造的な文章の書き方 | 創造的な文章の書き方 |
| 評価 | 評価的な文章の書き方 | 評価的な文章の書き方 | 評価的な文章の書き方 |
| 総括 | 総括的な文章の書き方 | 総括的な文章の書き方 | 総括的な文章の書き方 |

⑤ 所属校で想定される活用例を提示

| 所属校 | 活用事例 | 活用事例 | 活用事例 | 活用事例 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 所属校A | 活用事例A | 活用事例A | 活用事例A | 活用事例A |
| 所属校B | 活用事例B | 活用事例B | 活用事例B | 活用事例B |
| 所属校C | 活用事例C | 活用事例C | 活用事例C | 活用事例C |
| 所属校D | 活用事例D | 活用事例D | 活用事例D | 活用事例D |

③ 「『書くこと』の系統的な指導計画表」を作成

④ 研究授業、
アンケート分析による実態把握

【「書くこと」に関して生徒に必要な取組】

「書くこと」を系統的に指導し、学習を積み重ねる

主張と根拠をつなぐ

論拠を示す

情報を関連付ける

推敲する

【学校教育目標】

ハイレベルな文武両道・一人ひとりの進路希望の実現・主体性あふれる人材の育成

はじめに

令和4年から、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」(以下、「高等学校・学習指導要領」という)に基づく教育課程が実施されており、高等学校国語科は大幅な科目再編による新しい指導が求められた。これは、中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」において、従来の高等学校の国語教育は、「教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていないこと」等、生徒の表現力を育成する領域の指導が不十分であったと指摘されたという背景があったからである。

この改善を図るために、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説国語編』(以下、『高等学校・解説』という)では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」各領域の学習過程と指導事項が明確に示された。

現状に目を向けると、年度当初に行った所属校の国語科教員への聞き取りからは、生徒に必要な「書くこと」についての取組として、「主張と根拠のつながりを示す」、「論拠を記述する」、「情報を関連付ける」、「自分が書いた文章を推敲する」等、多岐に渡る回答が得られた。

また、後述する生徒を対象とした「学習前アンケート」(資料5)からは、文章を書くことについて「自分の伝えたいことが相手にしっかり伝わるように書けるようにしたい」、「目的や根拠に合った文章を作れるようになりたい」等、生徒自身が「論理的な文章を書く力」を必要としていたことが確認できた。

こうした状況から、所属校において「論理的な文章を書く力」を身に付ける指導について検討することが取り組むべき課題であると強く感じた。

高等学校国語科では、共通必修科目「言語文化」等において文学的な文章を書く指導によって豊かな感性や情緒を養うことも大切だが、本研究では、所属校の実態を考慮し、「現代の国語」と「論理国語」で身に付ける「論理的な文章を書く力」に着目する。

高等学校の教育課程を経て、社会へ踏み出す第一歩の段階で、生徒は論理的な文章を書くことによって、自分の考えを相手に的確に伝える力が求められる。さらに、カリキュラム・マネジメントの視点からも、「書くこと」を指導するにあたり、学校教育目標や生徒の実態を踏まえ、見通しを持って行うことが望ましい。

しかし、自身の指導を振り返ると、入学してきた生徒たちの「書くこと」領域における学習経験を把握し

きれないまま高等学校段階の学習指導を始めていたことや、「書く力」を計画的に身に付けさせる指導が必要だったこと、それを生徒にも意識させるための授業づくりをすること等に再考の余地があった。

このような現状を改善するためには、実社会において求められる「書く力」を『高等学校・解説』に基づいて整理し直し、生徒たちに「論理的な文章を書く力」を確実に身に付けさせることを目指す授業実践を行う必要がある。

そこで、「高等学校国語科において、生徒が『論理的な文章を書く力』を身に付けるためには、どのような段階を踏めばよいのだろうか」という問いを立て、生徒にとって必要な学習段階を踏まえた系統的な指導を考えたい。さらに、「高等学校・学習指導要領」に示される「書くこと」の指導事項への理解は、個人で深めるだけではなく、国語科の教員全体の共通理解につなげる必要がある。そのためにも、「書くこと」の系統的な指導の実現に向けて、教員間で共有できる手立てが必要であろう。

研究の目的

本研究は、高等学校国語科の授業を通して生徒に「論理的な文章を書く力」を身に付けさせることを目指し、その手立てとして、「『書くこと』の系統的な指導計画表」を作成する。

研究の視点

1 高等学校における学校段階・科目間の学習の接続 (1) 中学校・高等学校段階の学習の系統性

高等学校国語科における系統的な学習指導の重要性は、既に「高等学校学習指導要領(平成21年告示)」への改訂の時点で取り上げられてきた。中央教育審議会(2008)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」には、「学習の系統性」が次のように説明されている。

○子どもたちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し、重点的な指導が行われるようにする。その際、小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては社会生活に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。

(下線は筆者による)

この答申を受けて、当時の「学習指導要領」では、教科全体の目標を「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してそ

の向上を図る態度を育てる。」(p.25)と示された。この目標について、『高等学校学習指導要領(平成21年告示)解説国語編』(p.9)では、「小学校及び中学校の指導との一貫性を図りながら、生徒の発達の段階に応じた指導を目指し」との記載がある。

これに続いて、高等学校段階では国語科は複数科目に分かれるため、教科の目標が「各科目の目標に個別化され、それぞれの科目の指導を行うこととなる」とされている。このことは、現行の『高等学校・解説』においても引き継がれており、各科目の目標は系統性を持って立てられている。

しかし、実際の学校現場での授業では、中学校・高等学校段階の学習の系統性が意識されていない現状が多く見受けられる。大滝(2025)が「高等学校の共通必修履修科目は、高等学校だけの閉じた世界ではなく、義務教育との接続が強く意識された上で構想されたもの」と述べているように、中学校段階と高等学校段階の学習指導は、系統立てて行われる必要がある。

(2) 「現代の国語」と「論理国語」の接続

本研究は、「論理的な文章を書く力」に着目するため、「現代の国語」と「論理国語」の学習の接続を考える。これは、前述の教員と生徒が必要とする「書くこと」についての取組の実態や、所属校の教育課程において生徒全員が共通必修履修科目「現代の国語」を1年生で履修し、選択科目「論理国語」を2・3年生で分割履修することを踏まえたためである。各科目の性格は、『高等学校・解説』に次のように示される。

共通必修履修科目「現代の国語」(2単位)

実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置き、全ての生徒に履修させる共通必修履修科目として新設した。

(『高等学校・解説』p.68より引用、下線は筆者による)

選択科目「論理国語」(4単位)

共通必修履修科目である「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する科目として、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力の育成を重視している。

(『高等学校・解説』p.144より引用、下線は筆者による)

下線部にあるように、この2科目は、「実社会における国語」による活動を意識した科目であり、学習を通して身に付けることが目指される資質・能力の一つが「論理的な文章を書く力」であるといえる。

島田(2023)は、この2科目の学習の接続に関して、「『現代の国語』で育成された『実社会・実生活に生きて働く国語の能力』は、『論理国語』で育成する能力の基礎として大きな役割を果たすと考えてよい」と述べている。

さらに、佐藤(2023)は、「教師が科目間の関連性を意図して授業構想することは、生徒の側にとっても『現代の国語』で学び得た知識を『論理国語』で生かそうとすることにつながるとともに新たな知識を獲得していく過程を生徒自身が実感する仕掛けとなる」と述べている。

両者の見解からも、科目間の学習を接続する視点を持つことは、高等学校段階の系統的な指導を実現するうえで重要であるといえる。

2 「書くこと」の系統的な指導に関する整理

『高等学校・解説』には、「国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている」ため、小学校・中学校の指導内容を受けて「系統化」が図られているとある(p.13)。これを踏まえて、現在までの「書くこと」の系統的な指導に関して、各学校段階の研究動向を次に整理する。

(1) 小学校・中学校段階の研究

植地(2007)は、小学校・中学校の国語科における系統的な指導のために「系統表」に基づく指導が有効であるという視点から、「小中9年間『書くこと』到達目標に関する一覧」を作成している。また、三木(2015)は、国語科が「小学校6年間における指導の系統性が見えづらい教科である」と考え、「小中9年間を見通した文学的な文章教材指導の系統表」を作成し、授業実践を通してその活用を検証している。そして、水戸部(2025)は、小学校・中学校9年間の系統性について検討し、「前学年までの学習経験を生かして、新たな種類の文章を書くことを重ねていくこと」の重要性を述べている。

(2) 高等学校段階の研究

一方で、高等学校段階における「書くこと」の系統的な指導を扱う先行研究は少ない。

河手(2019)は現行の「学習指導要領」に基づく授業構想に際して、高等学校の「従来の授業では、『読むこと』を深めるために『書く』のか、『書く』力をつけるために『書く』のかも明確ではなく、『書く』ための方法についても十分な指導がないまま中学校までの学習履歴に依存して、いきなり『書くこと』を生徒に求めることが多かった」と述べている。

また、長谷川(2020)は、論理的思考力を養う教材開発の視点から、「先行文献や国語教科書の検討等から、中・高等学校国語科の論理的文章を『書くこと』の学習では、系統的な指導の確立に多くの課題を残している」とし、既存の教材には「事実の書き方を例文に基づき説明していない」等の課題があると指摘して

いる。

以上のことから、中学校段階と高等学校段階の「学習の系統性」を踏まえて科目間の学習を接続し、「書くこと」の指導事項の系統性を『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』(以下、『中学校・解説』という)及び『高等学校・解説』に基づいて分析する視点を持って本研究を進める。そして、高等学校国語科における「書くこと」の授業に資する手立てとして「『書くこと』の系統的な指導計画表」を作成していく。

研究の内容

研究の手順は、次のとおりである。

- 1 「論理的な文章を書く力」の指導事項の分析
- 2 「論理的な文章を書く力」の指導計画表の作成
- 3 研究授業等による所属校の実態把握
- 4 所属校の実態に即した指導計画表の編成

1 「論理的な文章を書く力」の指導事項の分析

「書くこと」領域における「論理的な文章を書く力」に着目し、中学校第3学年「国語」、高等学校の共通必修教科目「現代の国語」、選択科目「論理国語」の「書くこと」の指導事項について分析し、その系統性を捉えていく。

「論理的な文章を書く力」を生徒に身に付けさせることを目指す指導の最終段階で扱う「論理国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕A「書くこと」の指導事項は、次のとおりである。

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。
- イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。
- ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。
- エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。
- オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。
- カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

(「高等学校・学習指導要領」p.39より引用)

この指導事項に関して、例えば、指導事項ア「題材の設定」について『高等学校・解説』には、次の下線部の『現代の国語』の…を受けて」という箇所、「現代の国語」と「論理国語」の系統性が確認できる。

ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。

「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)の「ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。」を受けて、題材の設定の範囲を実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄に広げ、伝えたいことを明確にして、目的や意図に応じた適切な題材を決めることを示している。

(『高等学校・解説』p.155より引用、下線は筆者による)

この関連について、中学校第3学年「国語」を含めて、各指導事項が前段階の科目の指導事項の内容を受けている様子を図示すると、次のようになる(図1)。

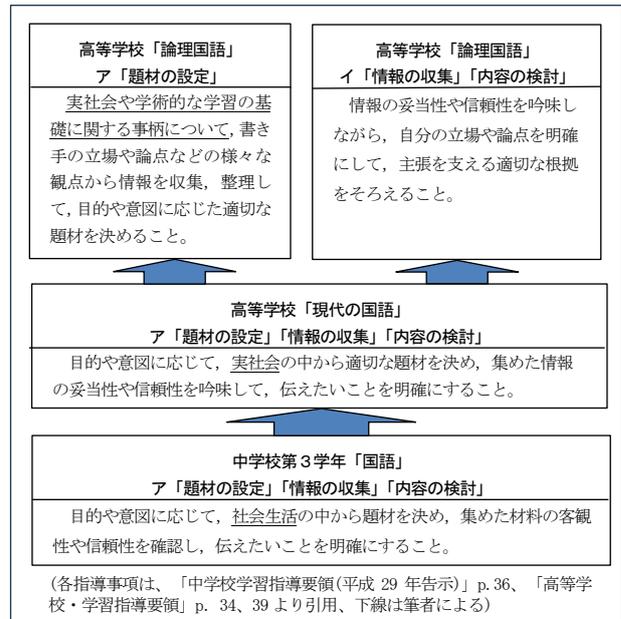


図1 指導事項の系統性(アの場合)

図1に示すように、中学校第3学年「国語」の指導事項ア「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」は、その内容を受ける高等学校「現代の国語」の指導事項ア「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」へつながる。その後、「論理国語」へつながる際に、指導事項がア「題材の設定」とイ「情報の収集」「内容の検討」に分かれ、身に付けることが求められる資質・能力はより高度なものになる。

特に、下線部について、「題材の設定」の範囲が「社会生活」から「実社会」、「実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について」へと段階的に広がり、指導事項の内容の系統的な発展が確認できる。

このような「書くこと」の指導事項の分析により、その系統性を把握し、実際の学習指導に落とし込むた

めの手立てとして、まず、図1で示した指導事項の関連をア以降も同様に分析し、整理する。

そして、『中学校・解説』と『高等学校・解説』に基づき、「書くこと」の学習過程を「縦の系統」、学校段階・科目を「横の系統」とし、次のように整理する(表1)。

表1 「書くこと」の指導事項の系統表
(資料6を簡略化したもの)

| 学校段階「科目」 学習過程 | 中学校 第3学年「国語」 | 高等学校 共通必修教科目 「現代の国語」(2単位) | 高等学校 選択科目 「論理国語」(4単位) |
|------------------|--------------|------------------------------|--------------------------|
| 題材の設定 | ア | ア | ア |
| 情報の収集 | | | イ |
| 内容の検討 | | | |
| 構成の検討 | イ | イ | ウ |
| 考えの形成 | ウ | ウ | エ |
| 記述 | | | オ |
| 推敲 | エ | エ | カ |
| 共有 | オ | | |

なお、中学校第3学年「国語」のイ、ウに関しては、次の学校段階・科目である高等学校「現代の国語」のイ、ウの双方の内容につながるため、表1内にある指導事項の境目を点線で表した。

2 「論理的文章を書く力」の指導計画表の作成

次に、中学校第3学年「国語」、高等学校「現代の国語」、「論理国語」の「書くこと」の全ての指導事項を2段階に分けた。

これは、系統的な指導の実現に向けて、生徒に段階的な学習指導を行う必要があると考えるためである。また、この段階分けにより、「書くこと」の指導事項について、教員が各学校段階・科目間の系統性への理解をより深め、授業実践につなげやすくなると考えられる。2段階に分ける際には、『中学校・解説』と『高等学校・解説』に基づいて「書くこと」の学習過程が明確であることに着目し、次の二つのパターンを考えて、指導事項の段階分けを行った。

- (a) 指導事項が一つの学習過程のみを示す場合は、「学習内容」の基礎段階にあたる部分と応用段階にあたる部分で区切る。
(b) 指導事項が複数の学習過程を含む場合は、「学習過程」ごとに区切る。

上記の(a)、(b)について、「論理国語」の「書くこと」の指導事項ア、「現代の国語」の「書くこと」の指導事項イを例に示すと図2、3のようになる。

この作業を「論理国語」の「書くこと」の指導事項イ～カ、「現代の国語」の「書くこと」の指導事項イ～エ、中学校第3学年「国語」の「書くこと」の指導事項ア～オについても同様に行い、表1に反映させると、「書くこと」の学習段階を6ステップに表すことができる(表2)。

- (a) 指導事項が一つの学習過程のみを示す場合
・指導事項を「学習内容」の①基礎段階、②応用段階にあたる部分で区切る。
・共通する部分は、それぞれにいかす。

例：高等学校「論理国語」
指導事項ア(題材の設定)

①実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、
②書き手の立場や論点など様々な観点から情報を収集、
整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。

①基礎段階(題材の設定)

実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、
目的や意図に応じた適切な題材を決めること。

②応用段階(題材の設定)

書き手の立場や論点など様々な観点から情報を収集、
整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。

(元の指導事項アは、「高等学校・学習指導要領」p. 39より引用、
記号・下線は筆者による)

図2 指導事項の2段階化(a)パターン

- (b) 指導事項が複数の学習過程を含む場合
・指導事項を「学習過程」で①基礎段階、②応用段階に区切る。
・共通する部分は、それぞれにいかす。

例：高等学校「現代の国語」
指導事項ア(題材の設定、情報の収集、内容の検討)

目的や意図に応じて、①実社会の中から適切な題材を決め、
②集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

①基礎段階(題材の設定)

目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、
伝えたいことを明確にすること。

②応用段階(情報の収集、内容の検討)

目的や意図に応じて、集めた情報の妥当性や信頼性を
吟味して、伝えたいことを明確にすること。

(元の指導事項アは、「高等学校・学習指導要領」p. 39より引用、
記号・下線は筆者による)

図3 指導事項の2段階化(b)パターン

表2 「書くこと」の学習段階の6ステップ表
(資料7を簡略化したもの)

| 学校段階 科目 | 中学校 第3学年 「国語」 | | 高等学校 共通必修教科目 「現代の国語」(2単位) | | 高等学校 選択科目 「論理国語」(4単位) | | ステップ でできるか |
|------------|------------------|-------|------------------------------|-------|--------------------------|-------|--|
| | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | ステップ4 | ステップ5 | ステップ6 | |
| 題材の設定 | 【ア①】 | 【ア②】 | 【ア①】 | 【ア②】 | 【ア①】 | 【ア②】 | Ⅰ 書き手として 題材を設定し、 情報を 適切に扱う |
| 情報の収集 | | | | | 【イ①】 | 【イ②】 | |
| 内容の検討 | | | | | | | |
| 構成の検討 | 【イ①】 | 【イ②】 | 【イ①】 | 【イ②】 | 【ウ①】 | 【ウ②】 | Ⅱ 読み手において、 文章の構成・ 論理の展開を 工夫し、 自分の考えを 明確・的確に 伝える |
| 考えの形成 | 【ウ①】 | 【ウ②】 | 【ウ①】 | 【ウ②】 | 【エ①】 | 【エ②】 | |
| 記述 | | | | | 【オ①】 | 【オ②】 | |
| 推敲 | 【エ①】 | 【エ②】 | 【エ①】 | 【エ②】 | 【カ①】 | 【カ②】 | Ⅲ 他者意識・ 自己理解を 深める |
| 共有 | 【オ①】 | 【オ②】 | | | | | |

この指導事項の文言の具体化の作業による表3への記載は、次のようになる。

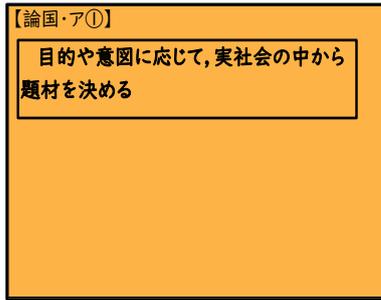


図5 ステップ5【論国・ア①】に指導事項の文言を具体化して示した状態

(2) 単元における学習活動の内容を項目で示す

複数の教員で授業を実施する際には、単元の構想や授業の明確なイメージを共有する必要がある。

澤井(2024)は、校内研究の改善に欠かせない視点として「授業イメージを共有する視点」を挙げ、「言葉はシンプルにするほどに取り組むべきことが明確になり、共通理解が図られる」と述べている。

そのため、(1)の作業に加えて、授業で行うことが考えられる学習活動の内容を、具体化した指導事項の下に1～3程度の項目で示す。ここで示す学習活動は、学校や生徒の実態に応じて選び、全てを扱わなくてもよいと考える。

例えば、表3のステップ5「論理国語」ア①においては、この指導事項を扱う単元における学習活動の検討のために、『高等学校・解説』本文の次の箇所に着目する。

「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)の「ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。」を受けて、題材の設定の範囲を**実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄**に広げ、伝えたいことを明確にして、**目的や意図に応じた適切な題材を決める**ことを示している。また、その過程における情報の収集、整理に際して、様々な立場の書き手による、様々な論点の文章・資料に広く目を配ること**を求めている**。

学術的な学習の基礎とは、専門的な学習を始めるために身に付けておくべき基礎的な内容である。ここでは、**興味・関心をもったことの中から更に学びを深めようと考えたことや、課題として意識し、解決策を探ろうと考えたこと、また、高校卒業後に専門的に学問として学び深めていきたいと考えたこと**などから**題材を見いだすこと****を求めている**。

(『高等学校・解説』p. 155より引用、下線・網掛けは筆者による)

ここから、実際の学習活動に落とし込みやすい説明を「～を求めている」(網掛け、囲み部分)に着目して読み取る。その後、必要な語句を補って学習活動の項目を立て、教員間で単元・授業のイメージの共有が容易になるようにした(図6)。

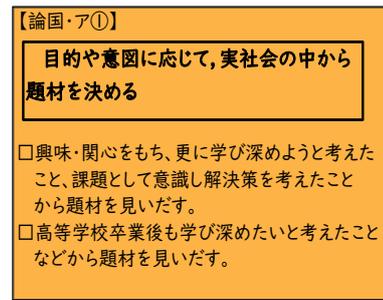


図6 ステップ5【論国・ア①】に学習活動の項目を加えた状態

この作業を全てのステップにおける指導事項ごとに行った。

なお、様々な学校、生徒の実態に応じて活用することを考え、表3では、文章の種類を指定しない。

(3) 授業時数を記入する欄を設ける

実際の授業、単元指導計画や年間指導計画の作成との関連を考え、授業時数を記入する欄を設けた。

「高等学校・学習指導要領」では、「書くこと」領域の授業時数は、「現代の国語」が「30～40 単位時間程度」、「論理国語」が「50～60 単位時間程度」と定められている(p. 35、40)。これを考慮したうえで、各校の教育課程を踏まえた指導計画を検討する必要がある。

(4) 各ステップで「目指す姿」を示す

ステップ1～6において、「書くこと」の系統的な指導によって生徒が資質・能力を身に付けた状態を示す「目指す姿」の欄を設けた。具体的な到達点が示されることで、複数の教員が指導に一貫性を持たせることができると考えた。

(5) [ステップ1][ステップ2]の項目の活用による実態把握を行う

表3の[ステップ1][ステップ2]には、中学校第3学年「国語」における「書くこと」の指導事項及び学習活動を他ステップと同様に項目立てた。

これらを活用して、高等学校入学後、初回の授業で生徒の学習経験を問う調査を行い、回答状況から教員が指導の見通しを持てるようにする。この実態把握を基に、どの指導事項に関して学び直しが必要か、授業時数に何時間程度を要するのか等、系統的な指導の検討にいかすことができる。

調査は[ステップ1][ステップ2]の項目を抽出したアンケートを作成・実施する、この段階相当の作文を書く等、各校の実態に応じた方法が考えられる。

調査の結果、中学校段階の「書くこと」の基礎の学び直しを必要とする場合は[ステップ1]を踏まえた[ステップ2]の指導を実践する。基礎が十分に定着していると判断できる場合は、高等学校段階にあたる[ステップ3]から指導を始めることとなる。

3 研究授業等による所属校の実態把握

表3を実際の「書くこと」領域の指導の検討のために活用することを考え、所属校の生徒の実態把握を踏まえた活用例を示す。そのための実態把握の方法として、次の2点を行った。

- (1) 所属校での研究授業の実施
- (2) 研究授業前後のアンケート実施

(1) 所属校での研究授業の実施

所属校の2年生を対象に、「論理国語」の「書くこと」の指導事項「題材の設定」を扱い、研究授業を実施した。なお、指導事項に関しては段階分けをせずに扱った。科目間の学習の接続を踏まえて、生徒が1年生で使用した教科書『現代の国語』（大修館書店）と現在使用している教科書『高等学校標準論理国語』（第一学習社）を単元指導計画の作成の参考とした。

研究授業の概要(期間：令和7年8月29日～9月26日)

【単元】
「自分が『書きたい』テーマを設定する力を身に付けよう」

【「書くこと」の指導事項】
ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。

【対象】 第2学年4、5組(75名)

【授業者】 筆者、国語科教員3名

※授業実践にあたり、筆者が担当した2クラスの授業に、所属校の国語科教員1名の協力があり、ともに指導を行った。同時期に、学年の他5クラスに対しても所属校の国語科教員2名が同じ内容を実施した。

単元指導計画は資料1、授業で扱ったワークシート(3枚)については資料2、3、4を参照されたい。

授業にあたって、論理的な文章について、次のように定義付け、教員と生徒間で共有した。

自分の「主張」を的確に伝えるために、「事実」や「理由づけ」などの内容を筋道立てて整理した文章のこと。

研究授業のうち、本単元の学習目標に関わる指導を行った4、5時間目の概要は次のとおりである。

【4時間目】
○学校図書館で「情報収集」を行う

論理的な文章を書くためには、「主張」を支える根拠となる「事実」が必要である。そこで、学校図書館を活用して「事実」にあたる情報を集める活動を行った。生徒が情報を集めやすくなるように、学校司書と連携して、個人テーマの関連書籍等を選定し、五つのブースを設置する等の工夫を行った(図7)。



図7 学校図書館での授業

【5時間目】

○レポートのアウトラインを作成する

レポートの個人テーマを設定する際に、「三角ロジック」の考え方を活用して「主張」、「事実」、「理由づけ(論拠)」の要素を満たす論理的な文章を書くためのアウトラインを作成する活動を設定した。

この授業時間内に、アウトラインを完成させることができた生徒は、授業の出席者72名のうち18名であり、本単元における学習活動で生徒間の進捗に最も差が生じた活動であった。授業で扱ったワークシート③(資料4)は、生徒が「題材の設定」にあたり、自分の思考過程を可視化することで、論理的な文章を設計できるように作成したものである。

しかし、この時間の取組状況を確認すると、アウトラインが完成していない生徒の多くが「主張」と「事実」をつなぐ考えである「理由づけ(論拠)」を十分に記入することができていなかった。授業時間の後半では、同じ視点で個人テーマを設定している生徒同士でグループを組み、助言し合う時間を設けて、進度の調整を図った。

研究授業を通して、所属校の生徒が「論理的な文章を書く力」を身に付けるために必要な取組は、次のようなものであると考えた。

- ・複数の情報を整理する際に、「主張」の根拠となる「理由づけ(論拠)」を考えること
- ・自分の考えを筋道立てて書き表すこと

以上のことから、前年度までに、複数の情報を扱い、論理構成を検討する学習活動を反復する必要があったと考えられる。

一方で、学習に取り組む過程で自分が「書きたい」ことに適した別テーマに目を向ける気付きを経験した生徒の様子も見られた。

| 5時間目終了時の生徒の「個人テーマ」(抜粋) | |
|------------------------|----------------------------|
| 生徒A | なぜストレスを感じやすい人が増えているのか |
| 生徒B | なぜ疲れ、ストレスはとれにくいのか |
| 生徒C | 信頼はどうやって得るのか |
| 生徒D | 円滑なコミュニケーションに必要な術。 |
| 生徒E | 他者との上手な関わり方 |
| 単元終了時の生徒の「個人テーマ」(抜粋) | |
| 生徒A | 一人ひとりのストレスを無くすために、どうしたらいいか |
| 生徒B | 仕事でたまる疲れやストレスを軽減するには |
| 生徒C | なぜ挨拶をする人は信用されやすいのか |
| 生徒D | 承認欲求とコミュニケーションの関連性 |
| 生徒E | 他者と上手に関わるうえでの言葉遣いについて |

上記のように、5時間目終了時から単元終了時まで、個人テーマを焦点化していく変容が確認できた。生徒たちが個人テーマについて突き詰めて考え、今後も探究していくことができれば、生徒自身の「自分らしさ」や生き方にまで結び付くと感じられた。本単元の授業実践は、生徒が文章を書き始める段階の思考を整理し、文章作成の方向性を吟味することにつながったといえる。この先の「書くこと」の他の学習過程をより深めるものにもなると思われる。

さらに、個人の振り返りでは、次のようなものが確認できた(趣旨の変わらない範囲で一部表現を改めており、下線は筆者による)。

【「論理的な文章」を意識している回答】

- ・論理的な文章を書く際に、調べた情報を相手に伝わるように簡潔にまとめることが大変だと気づいた。
- ・全体を通して三角ロジックを使うことでより詳しくより論理的な文章を書くことができた。
- ・論理的に一つ一つの事柄に対して事実を交えながら書けた。

【学習経験の自覚や今後の学習への意識が見取れる回答】

- ・今後、授業の中で題材を設定するときに理由付けと事実を意識して取り組む。
- ・これから自分のことを論理的にまとめる機会が増えると思うので活かしたい。
- ・今までは自分が思ったことを書いてだけで事実がなかったり主張と事実が繋がってなかったけど、(授業で)ここまでやってきて事実と主張が繋がっていてそこにしっかりと理由づけがされているから相手に伝わりやすい文章になった。
- ・情報の因果関係や対比を明確にするために、読者が納得できるように具体例を添えるようにすると説得力が増しそう。
- ・手順を踏んで文章を書くことで説得力があり、読者に疑問を持たせない文章を書くことができる。

下線部の記述から、生徒が論理的な文章を書くことに意識を向け、本単元の「書きたい」テーマを設定する力を身に付けるための活動を通して、今後の学習にいかそうとする意識を持ったことがうかがえる。

(2) 研究授業前後のアンケート実施

研究授業の前後に、生徒の「書くこと」領域の学習経験を調査するアンケートを実施した(資料5)。設問と選択肢は、「書くこと」の指導事項の系統性を踏まえて、中学校段階から高等学校段階の学習経験を問うものを作成した。尾知(2025)の「【国語】『書くこと』に関するアンケート調査」を参考にし、選択肢は、『中学校・解説』と『高等学校・解説』の本文からの引用を元に、生徒に伝わりやすい語句、表現になるように書き換えを行った。

選択肢の各学校段階・科目の「書くこと」の指導事項との関連は、次のとおりとした。

- | | |
|------|--------------------|
| 選択肢① | 中学校第1学年「国語」 |
| 選択肢② | 中学校第2・3学年「国語」 |
| 選択肢③ | 高等学校「現代の国語」 |
| 選択肢④ | 高等学校「論理国語」(基礎的な部分) |
| 選択肢⑤ | 高等学校「論理国語」(応用的な部分) |

上記の選択肢を学習過程ごとに作成し、研究授業前には、「書くこと」の指導事項に基づいて学習経験を問い、その認識状況を調査した(学習前アンケート)。研究授業後には指導事項ア「題材の設定」、関連するイ「情報の収集」、「内容の検討」の学習経験を問い、研究授業前の認識との変容を確認した(学習後アンケート)。

各アンケートの調査結果は、次のとおりである。

「学習前アンケート」調査結果(抜粋)

N=75

| | 設問4 題材の設定 | 設問5 情報の収集 | 設問6 内容の検討 | 設問7 構成の検討 | 設問8 記述 | 設問9 考えの形成 | 設問10 発表 | 設問11 共有 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|--------------|------------|------------|
| ①(中学1年 国語) | 57 | 72 | 54 | 47 | 46 | 31 | 59 | 45 |
| ②(中学2・3年 国語) | 34 | 4 | 37 | 25 | 28 | 37 | 19 | 40 |
| ③(高校 現代の国語) | 14 | 32 | 36 | 20 | 29 | 28 | 11 | 13 |
| ④(高校 論理国語) | 19 | 9 | 21 | 35 | 36 | 35 | 39 | 29 |
| ⑤(高校 論理国語) | 14 | 52 | 14 | 26 | 17 | 15 | 25 | 7 |

「学習後アンケート」調査結果(抜粋)

N=75

| | 設問4 題材の設定 | 設問5 情報の収集 | 設問6 内容の検討 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ①(中学1年 国語) | 59 | 70 | 60 |
| ②(中学2・3年 国語) | 32 | 22 | 40 |
| ③(高校 現代の国語) | 26 | 37 | 39 |
| ④(高校 論理国語) | 25 | 7 | 23 |
| ⑤(高校 論理国語) | 16 | 36 | 29 |

アンケートの回答状況から、生徒の「書くこと」の学習経験の認識状況に対して必要な学習指導・支援について、次のことが考えられる。

[学習前アンケート] より

- ・設問4～11において、①中学校第1学年「国語」に関する学習経験があるという回答が集中した。

- ・2年生の生徒たちの多くは、これまでの「書くこと」の学習経験への認識が不十分であった。
- ・実態に即した系統的な学習指導が必要である。

[学習後アンケート]より

- ・「題材の設定」に関連する設問4～6において、高等学校段階の学習経験にあたる③④⑤の回答が微増した。
- ・生徒が「題材の設定」に関する学習経験の必要性を自覚したことがうかがえる。
- ・回答者数は過半数に満たない現状であるため、他の指導事項と区別を明確にすることを、今後の授業実践における教員間の共通の理解とする。

また、本単元で扱った「題材の設定」に関する学習を終えて、「今回学習したことをどのようにいかにすることができるか」という質問に関して、生徒は次のような回答をしている(趣旨の変わらない範囲で一部表現を改めており、下線は筆者による)。

- ・問いを作る、三角ロジックの考え方を活用するなど、題材設定をしやすい順番をいかし、論理的であり、情報が整理された文章を作りたい。
- ・自分の興味のあることを探究して、色んな情報を入手してやりやすい方法を見つけ、学習を深める。
- ・テーマから外れないようにどう事実と合わせるかということが社会人になったりレポートをまとめるときに役立つ。
- ・探究するテーマをより細かい視点に分け、課題設定することで自分にあった題材を決めることができる。
- ・レポートとか課題に使える。複数の情報から自分が調べたい視点を見つけるのにも活かせる。
- ・より自分が探究したい内容に合わせて事実を選ぶことができたので、将来プレゼンや営業をする機会があったら、より聞き手に受け取りやすい言葉を選んで使っていきたい。

下線部にある回答内容から、本単元を通して、生徒たちが「題材の設定」の学習経験を確かに認識し、その先の自身の活動について考えたことが見取れる。

以上のような、研究授業での生徒の取組、振り返りやアンケートに表れた生徒の声をいかして、所属校の実態に即した「書くこと」の系統的な指導計画を構想する。

4 所属校の実態に即した指導計画表の編成

前掲の表3について、実際の指導において活用するために、研究授業等による実態把握から得た情報を反映させ、活用例を示す。なお、本研究における研究授業は、2年生を対象としているため、後述の活用例は、生徒の実態を踏まえた今後の「書くこと」の指導の見通しの構想となる。特に、次の3点を考慮する。

- ・所属校の教育課程(「現代の国語」と「論理国語」の配置)
- ・研究授業等で見取った実態
- ・進路選択の傾向に応じた学習内容の調整

これらを踏まえ、段階的に取り組む指導事項を選び、所属校における「書くこと」の系統的な指導計画を編成し、表3の活用例として示したものが表3「『書くこと』の系統的な指導計画表」(所属校で想定される活用例)である。各ステップにおける指導に関する考え方は次のとおりである。

ただし、(1)と(2)に関しては、既に生徒たちが2年生であることを考慮し、実際の指導においては、実態を踏まえた今年度以降の指導にいかす考え方として示す。

表3 「『書くこと』の系統的な指導計画表」(所属校で想定される活用例) ※資料9を参照されたい。

| 学校種別/科目 | 中学校 第3学年「国語」 | 高等学校 共通の履修科目「現代の国語」(2単位) | 高等学校 選択科目「論理国語」(4単位) | 高等学校 選択科目「論理国語」(4単位) |
|---------|---|--|---|---|
| 学習過程 | ステップ1 【目的や意図】 や学校段階の「書くこと」の基礎を身に付けている。 | ステップ2 【目的や意図】 高等学校段階の「書くこと」の基礎を身に付けている。 | ステップ3 【目的や意図】 高等学校段階の「書くこと」の基礎を身に付けている。 | ステップ4 【目的や意図】 高等学校段階の「書くこと」の基礎を身に付けている。 |
| 題材の設定 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 情報の収集 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 内容の検討 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 構成の検討 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 考えの形成 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 記述 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 推敲 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |
| 共有 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □自分のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか(目的)を具体的に考える。 □知識や情報の中で長期したものの中から題材を決める。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □多様な多様な情報から、自分の考えをまとめるために必要な情報や信頼性の高い適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 | 【目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする】 □目的や意図に応じて、その題材が社会的に必要なものかを考える。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 □目的や意図に応じて、適切な情報を選択する。 |

(1) [ステップ2]の指導計画

2年生を対象とした研究授業等の実態把握で得られた情報を[ステップ2]における学び直しが必要かどうかの判断材料とする。

アンケートの結果から、生徒たちには、「書くこと」の学習経験を明確に認識する必要があったと考えられる。また、研究授業での実態把握からも「理由づけ(論拠)」を考えて書き表す学習に反復の必要があったと見取れたため、前年度に[ステップ2]における中学校第3学年「国語」の「書くこと」の指導事項イ「構成の検討」、ウ「考えの形成」、「記述」の学び直しを8～10時間程度をかけた指導を通して行えるとよい(表3「点線枠で示した部分」)。

(2) [ステップ3]、[ステップ4]の指導計画

[ステップ2]における学び直しの時間を踏まえて、高等学校段階の学習が始まる[ステップ3]では12～16時間、[ステップ4]では8～14時間程度をかけて指導を行う。「現代の国語」は、指導事項ア～エを高等学校初年度の1年間の十分な時間をかけて扱うことができるため、所属校のように一部の学び直しを行ったうえで「現代の国語」の学習を始めることも可能であると考えられる。

1年生修了時には生徒たちがステップ4に到達していることを目指す(表3「点線枠で示した部分」)。

(3) [ステップ5]、[ステップ6]の指導計画

所属校では、3年生の1学期から2学期前半にかけて進路活動に取り組む生徒が多い傾向があることを考慮し、2年生のうちに34～40時間程度をかけて「論理国語」の「書くこと」の指導事項を全て扱うことが望ましい(表3「太線枠で示した部分」)。その際、指導事項ア、イ、ウは段階を分けずに扱い、エ、オ、カは基礎段階を扱う。これは、生徒の進路活動において、自分の主張を的確に表現すること、他者意識をもって文章を書く過程で自己理解を深める場面が想定され、「育てる力」のⅡ、Ⅲに関して段階的に指導する必要があるためである。これに伴って、3年生では16～20時間程度を使い、指導事項エ「考えの形成」、オ「記述」、カ「推敲」、「共有」を段階的に指導できるように計画する(表3「二重線枠で示した部分」)。

以上の(1)～(3)を踏まえた指導計画を、表3に組み込むことで、所属校の実態に即した「書くこと」の系統的な指導計画を構想し、表3「として表した」。

研究のまとめ

1 成果と課題

本研究では、「学習指導要領」の「書くこと」の指導事項を分析し、各学校段階と科目間の学習の接続を

踏まえた「『書くこと』の系統的な指導計画表」を作成した。そして、研究授業等を通じた実態把握による情報を反映させ、所属校において想定される活用例を示し、教員による指導計画の検討の具体的な運用を提示した。

この「『書くこと』の系統的な指導計画表」を活用することによって、教員は、「書くこと」の指導事項の内容を授業として具現化しやすくなるだろう。また、その指導を受ける生徒たちは、系統的に学習を積み重ねることで、「書くこと」の資質・能力を身に付けることが期待できる。

そして、「論理的な文章を書く力」を身に付けることによって、生徒たちは、実社会での場面において、自らの考えを自身の経験に基づく言葉とともに、情報を活用して論理的に他者に伝え、交流し、自己実現に向かうことができると考えられる。

さらに、表3「で活用例を示したように、指導事項に要する授業時数等を学校の実態に応じて調整することができる点から、所属校だけでなく、教育課程に「現代の国語」と「論理国語」を配置する他の学校でも活用できる汎用性を持ち併せると考えられる。

この手立ての活用により、各校の国語科教員が「書くこと」の系統的な指導計画を協同して検討することができる。これは、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、高等学校における言語能力の育成の一端を担うことにもつながる。

この「『書くこと』の系統的な指導計画表」を実際に活用して、その効果を検証することに関しては、今後の課題とする。指導の過程で修正を加える等、実際の授業を通して様々な学校の教育課程、生徒の実態に応じた「『書くこと』の系統的な指導計画表」の有用性を明らかにしていく必要がある。

2 今後の展望

本研究の「『書くこと』の系統的な指導計画表」は、教員が協同的に指導計画を検討するために作成している。今後は、実践を経て、教員と生徒が「書くこと」の学習指導の見通しを共有できることを目指したい。

なお、本研究では、所属校の3年間の教育課程を踏まえて研究を進めたが、「『書くこと』の系統的な指導計画表」は、3年間以上の教育課程を有する学校においても、段階的・系統的な指導の実現に向けて取り入れることができると考えている。

そして、「現代の国語」と「論理国語」の学習内容の接続により、「論理的な文章を書く力」に着目したが、冒頭で述べたように、文学的な文章を書く指導においても系統的な指導は必要である。各校の教育課程に応じて、「書くこと」領域を扱う他の科目間の関連を考えた「『書くこと』の系統的な指導計画表」を編

成していくことも必要だろう。

また、高等学校国語科における系統的な指導は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全ての領域に必要な指導である。これら3領域のバランスのよい系統的な指導を充実させ、生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

特に、学習過程が「書くこと」領域と類似する「話すこと・聞くこと」領域の指導においても、前掲の表3を応用することが可能である。このように、表3は、各校の教育課程や生徒の実態に応じて調整し、系統的な指導にいかすことができる。

さらに、本研究における「書くこと」を系統的に指導する視点は、次期学習指導要領改訂の際にも必要であると考えている。

教育課程企画特別部会(2025)「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」は、生徒たちの「自らの人生を舵取りする力」と「民主的で持続可能な社会の創り手」を育成することを目指し、教育機関における「言葉を用いて思考を深めていく指導」に改めて注目している。

高等学校国語科の「書くこと」領域をはじめとする表現指導の充実が、今後も社会からますます求められるだろう。その際に、教員が「書くこと」領域の指導における系統性を理解して授業にいかす考え方は、生徒が必要とする「書く力」に向き合い、実態に即して生徒を育成していくうえで必ず役立つはずである。

おわりに

本研究を進めるにあたり、所属校教職員の皆様、2学年生徒の皆様にご理解・御協力いただいたこと、多くの方々に「書くこと」の指導研究に関わっていただき、御指導いただいたことに深く感謝申し上げます。

この研究が高等学校国語科における「書くこと」領域の指導の一助となることができれば幸いです。

[指導担当者]

上田 かおり¹ 石松 敦子¹ 清野 史康²

引用文献

- 教育課程企画特別部会 2025 「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」『論点整理』
https://www.mext.go.jp/content/20250925-mxt_kyoiku02-000045057_01.pdf (2025年11月14日取得) p. 6
- 中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改

善について(答申)」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/20230210-mxt_kouhou02-1.pdf (2025年11月17日取得) p. 75

中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2025年11月13日取得) p. 127

藤沢市教育文化センター 2025 『教科・領域等研究 国語科 確かで豊かな書く力を育む国語の授業』藤沢市教育文化センター p. 12

文部科学省 2018 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』 東洋館出版 pp. 120-125

文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領(平成22年告示)解説国語編』 教育出版 pp. 9-11

文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説国語編』 東洋館出版 p. 13, 68, pp. 92-96, pp. 144-145, pp. 154-162, pp. 326-327

植地洋子 2007 「国語科における小中9年間の『書くこと』の系統性を踏まえた具体的な指導・研究の在り方—自分の考えを明確にした文章を書く力を育てるために—」(京都市教育センター『研究紀要』報告517) pp. 1-30

大滝一登(編著) 2025 『高校国語 新しい時代に対応した国語科教育の方向性 国語科の存在意義を再考する』 明治書院 p. 39

尾知紀彰 2025 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る教育の在り方についての研究—単元目標に沿った振り返りと標準規準に沿ったフィードバックから単元目標の達成を目指す—」(高知県教育センター『令和6年度 研究紀要』) pp. 1-2, 資料1

河手由美香 2019 「社会に開かれた高等学校国語の『書くこと』の授業—主体的な表現者として他者との関わりの中で成長するために—」(明治書院『日本語学』第38巻第5号) pp. 132-133

佐藤治郎 2023 「『現代の国語』と『論理国語』の学びをつなげる実践—『情報の扱い方』を軸に科目間を関連させ、思考過程を『見える化』する—」(明治書院『日本語学』第42巻第3号) pp. 140-141

澤井陽介 2024 『入門 校内研究のつくり方 教師自らが共に学ぶ 主体的・対話的で深い研究を実現する!』 東洋館出版社 p. 147

島田康行 2023 「『論理国語』—育成を目指す資質・能力と授業の構想—」(明治書院『日本語学』第42巻第1号) p. 34

- 長谷川祥子 2020 「中・高等学校国語科における論理的
的文章を書くための教材の開発」(青山学院大学
教育学会『青山学院大学教育学会紀要 教育研究』
第64号) p. 2
- 三木礼子 2015 「小中の系統性を踏まえた国語科授業
づくりー文学的な文章教材指導の系統表作成と
構造的読解力の育成を通してー」(和歌山県教育
センター学びの丘『平成27年度研修員報告書』第
41集) pp. 1-8
- 水戸部修治 2025 「小・中9年間の系統性を生かした
国語科の学習指導に関する考察ー『書くこと』に
おける構成の検討を中心にー」(京都女子大学教
職支援センター『京都女子大学教職支援センター
研究紀要』第7号) p. 47

参考文献

- 文部科学省 国立教育政策研究所 2021 『「指導と評
価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
教育課程研究センター
- ベネッセウェルビーイングLab 2022 「ウェルビーイ
ングってなんだろう」
[https://www.benesse.co.jp/well-being/about/
index.html](https://www.benesse.co.jp/well-being/about/index.html) (2025年8月18日取得)
- 大滝一登(編著) 2019 『高校国語 新学習指導要領を
ふまえた授業づくり【実践編】』 明治書院
- 大滝一登 2022 『高等学校 新学習指導要領 国語
の授業づくり』 明治図書
- 大滝一登 2024 『高校国語 生徒主体の授業のつくり
方』 明治図書
- 鶴田清司 2017 『授業で使える! 論理的思考力・表
現力を育てる 三角ロジック 根拠・理由・主
張の3点セット』 図書文化社
- 中瀬正堯 2024 『現代の国語1』 三省堂
- 松本久美 2013 「『国語表現』の年間指導計画の研究
ー評価規準に着目してー」(神奈川県立総合教育セ
ンター『神奈川県立総合教育センター長期研究員
研究報告』11号)

単元指導計画

教科名：国語

1 科目名「論理国語」(第2学年)

2 単元名「自分が『書きたい』テーマを設定する力を身に付けよう」

3 単元の目標 (ねらい) (身に付けさせたい力)

- (1) 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- (2) 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。 [思考力・判断力・表現力等] A(1)ア
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4 本単元における言語活動

設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。(関連：[思考力、判断力、表現力等] A(2)エ)

5 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現等 c：主体的に学習に取り組む態度

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使っている。(2)イ | 「書くこと」において、実社会や学術の学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。(A(1)ア) | レポートを書くことを通して、実生活や既習の学習などに基づいて、必要な情報を収集、整理して、独自の視点をもって適切な題材を決め、その題材にふさわしい情報を集め、主張を支える根拠をそろえる過程で粘り強く学習に取り組む、自らの学習を調整しようとしている。 |

6 単元の指導と評価の計画 (7) 時間扱い ○「記録に残す評価」

| 次 | 時 | 学習活動 | a | b | c | 評価のポイント・指導上のポイント |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | <p>○学習の見通しをもつ。 ○課題作文に取り組む。 【Google ドキュメント課題シート①】</p> <p>(1)学習の見通しをもつ。(10分) (2)Google ドキュメント課題シート①の課題作文に取り組む。 (25～30分)</p> <p>・「よりよく生きること」を実現するために、どのようなことをしたいか、自分の考えを書く。 ※8月29日(金)～9月3日(水)まで40分授業</p> | | | | <p>指</p> <p>(1)「論理的な文章を書く力」を身に付けるため、既習事項と関連付けて学習を進める本単元の学習の見通しをもたせる。</p> <p>(2)「よりよく生きること」について、生徒は、現時点で知っていること、経験してきたことのみを材料にして文章を書く。 【Google ドキュメント課題シート①への取組】</p> <p>・次時から、レポートを書き始める際の「題材の設定」を学習することを伝える。</p> |

- 「問い」を作る練習をする。
 - 個人テーマの仮設定をする。
- 【ワークシート①】

(1)本單元における「レポート」の定義を確認する。(5分)

ワークシート①の①

(2)「問い」を作る練習を通して、題材を設定する方法を学習する。

(20分)

ワークシート①の② (1)

身近な生活における事柄について具体的な「問い」を立て、題材の設定を練習する。

《1～4班》「SNSの利用」

《5～10班》「書き言葉」

⇒各班1つの「問い」を選び、全体で共有する。(板書)

(3)実社会における「ウェルビーイング」の実現について、各自の個人テーマを仮設定する。(27分)

ワークシート①の② (2)

- ・「問い」を立てるうえで必要な視点を知る。(教材スライド)
- ・「ウェルビーイング」の定義を知る。

ワークシート①の③

・「個人のウェルビーイングを測る5つの視点」から1つを選び、その視点をもとに個人テーマを仮設定する。

5つの視点

- ・仕事への納得感、やりがい
- ・他者との深い関わり、愛情
- ・経済的な満足、充実
- ・心と体の健康、エネルギー
- ・地域とのつながり

・レポートを書く目的と意図を確認し、具体例、具体的な問いを作り、個人テーマを仮設定する。

目的と意図

実社会にある事柄の中で、自分が実現したいと考えることを第三者に伝える。

- ・個人で考える。(5分)
- ・班で意見交換をする。(10分)

指

(1)教材スライドで次の内容を表示する。

「レポート」とは、
社会で起きている様々な出来事から、自分でテーマを設定し、客観的な事実を用いて考察し、第三者に伝える文章。

指

(2)身近な生活における事柄について、具体的な疑問を「なぜ～なのか」、「どうして～だろうか。」等の形式で挙げ、「問い」を作る。各班で案を出し合い、問いの作り方を理解しているかを点検する。

「記述の点検」

【ワークシート①への取組】

参考：「レポートを書く」、ウォームアップ、ワーク①(『現代の国語』大修館書店P. 238～239)

指

(3)教材スライドを表示し、「問いを立てる」うえで、必要な視点を示す。

「答えのない問い・答えの出る問い」
「ありきたりな問い・ユニークな問い」
「大きな問い・小さな問い」
「データアクセスできる問い・できない問い」

参考：上野千鶴子「問いを立てる」(『現代の国語』大修館書店P. 243～244)

- ・本單元では、下線部「小さな問い」、「データアクセスできる問い」を扱うことを指示する。
- ・教材スライドを用いて、「ウェルビーイング」の定義等を説明する。

指

(3)個人テーマの設定について、次のことを伝える。

- ・次時までの間に具体的になること、変化することがあってもよい。
- ・個人テーマについて、レポートの目的を踏まえているかを確認して設定する。
- ・次時、「論理的な文章」とは、どのような文章かを学習することを伝える。

| | | | |
|---|---|--|--|
| 3 | <p>○「三角ロジック」を活用し、論理的な文章の要素を知る。 ○図書館での資料探しの準備をする。 【ワークシート②】</p> <p>(1)個人テーマを考える。 ワークシート①の③ ・前時に続き、仮設定する個人テーマを個人で考える。(10分)</p> <p>(2)「論理的な文章」を知る。 ワークシート②の① ・レポートに書く文章は「論理的な文章」である必要があることを知る。</p> <p>(3)「三角ロジック」の考え方を知る。(25分) ワークシート②の② ・「三角ロジック」の考え方を知り、筋道を立てた文章には、「主張」、「事実(根拠)」、「理由づけ(論拠)」が必要であることを学ぶ。 ワークシート②の③ ・実社会での「キャッシュレス決済」について「理由づけ」を自分で考え、ペアで意見交換をする。 ・どのような「理由づけ」ができるのかを全体で共有する。</p> <p>(4)個人テーマの設定に必要な情報を集める準備をする。(17分) ワークシート②の④ ・個人テーマを設定するために、三角ロジックを成立させるには、どのような「事実」が必要かを考え、その情報を集める活動に向けたメモを作成する。 ・次時に行う資料探しのための見通しを立てる。</p> <p>(5)本設定する個人テーマをフォームに回答する。</p> | | <p>指 (1) ワークシート①では「仮設定」だが、この時間の学習活動の最後には、「本設定」することを伝える。「問い」の作り方の手順を理解し、個人テーマの仮設定に取り組んでいるかを確認する。 「記述の確認」 【ワークシート①への取組】</p> <p>指 (2)教材スライドで次の内容を表示する。</p> <div data-bbox="895 611 1433 931" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「論理的な文章」とは 「自らの主張や考え」を「相手に効果的に受け入れられるよう、論拠に基づいて効果的に構築」されている文章(『解説国語編』)</p> <p>自分の「主張」を的確に伝えるために、「事実」や「理由づけ」などの内容を筋道立てて整理した文章のこと。</p> </div> <p>指 (1)(2)(3)「三角ロジック」の考え方に基いて、「論理的な文章」に必要な要素「主張」、「事実(根拠)」、「理由づけ(論拠)」を示す。 ワークシート②の②、③の学習活動を通して論理的な文章の構造を理解している様子を点検する。 「記述の点検」 【ワークシート②への取組】</p> <p>(4)個人テーマの設定に関して、必要な情報を探すために、集めたい情報や調べたい事柄について考えることができていることを点検する。 「記述の点検」 【ワークシート②への取組】</p> <p>(5)本設定する個人テーマの視点をフォームに回答させ、5時間目の学習活動時の班分けにいかす。 ※各自の調べたい事柄を把握するため、ワークシート②はこの時間に回収する。</p> |
| 3 | 4 | | <p>指 ・授業の始めに、ワークシート②を返却、ワークシート③及び③資料の追加用プリントを配付する。</p> |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|
| | | <p>(1)学校図書館を利用し、複数の資料を集め、個人テーマの設定に必要な情報を集める。(30分) ワークシート③の① ・前時の振り返り、本時の活動について確認する。 ワークシート③の② ・引用箇所をワークシート③に2つ以上記入する。 ※9月11日(木)40分授業。 ①2-7、⑥2-4</p> | | | <p>指 (1)個人テーマの設定にあたって、どのような情報が集められるかを検討させる。複数の資料から探すよう指示する。情報の妥当性や信頼性についても考えて、情報を集めている様子を点検する。 (例)書籍、新聞記事、インターネット 「朝日けんさくくん」の活用等 参考:「レポートを書く」、ワーク②(『現代の国語』大修館書店P.238~239)等 「記述の点検」 【ワークシート③、③追加用プリントへの取組】</p> |
| 4 | 5 | <p>○前時の活動をふまえて、レポートの個人テーマを本設定し、アウトラインを作成する。 【ワークシート③】</p> <p>(1)収集した情報の重要度や抽象度に着目して整理し、レポートにアウトラインを作成する。(20分) ワークシート③の③ ・「個人テーマ」、「主張」、集めた情報をもとに、必要な「事実」を吟味して記入し、レポートのアウトラインを作成する。 ・「主張」、「事実」をつなぐ「理由づけ」、それらを踏まえた「結論」を記入する。 (2)同じ分野の班に分かれ、必要な情報が揃っているか、他者はどのような視点で情報を収集したのか等を確認する。(22分) (3)(2)をふまえて、アウトラインを修正、完成させる。(10分)</p> | ○ | ○ | <p>参考:「構成を考えてレポートを書く」3.アウトラインを作る、4.考察に必要な資料を整理し直す(『標準論理国語』第一学習社P.248~250) 評 (1)レポートのアウトラインとして、次の観点で必要な記述ができているかを確認する。 ・個人テーマの設定のために、調べた事柄から必要な「事実」を記述できている。 [知識・技能]「記述の確認」 【ワークシート③への取組】</p> <p>指 (2)各班のなかで(1)を共有し、各自の設定する題材に必要な情報が揃っているか等の意見交換を行わせる。 評 (2)(2)を踏まえて、アウトラインを修正、完成しているかどうかを確認する。 ・「個人テーマ」、「主張」、「理由づけ」、「結論」を筋道立てて記入できている。 [思考・判断・表現]「記述の確認」 【ワークシート③への取組】</p> |
| | 6 | <p>○レポートを書く。 【Googleドキュメント課題シート②】</p> <p>(1)アウトラインをもとに、Googleドキュメント課題シート【課題1】に取り組み、レポートを書き進める。(47分) (2)次時の連絡。(5分)</p> | | | <p>指 (1)Googleドキュメント課題シート②に取り組みさせる。 ・レポートを書くうえでの疑問点、題材の設定に関する不安などに適宜対応する。 (2)次時での学習活動の流れを連絡する。</p> |

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| 5 | 7 | <p>○「題材の設定」ができているかを課題シート②をもとに確認する。 ○自分が書いた文章について。学習前後における変容を確認する。 【Google ドキュメント課題シート②】</p> <p>(1)課題シート②【課題2】に取り組む。 (25分) ・ペアを組み、題材の設定に関して、情報の収集や整理ができているか等の観点で点検、助言し合う。 ・(1)を踏まえて、自分の文章を推敲する。</p> <p>(2)課題シート②【課題3】に取り組む。 (22分) ・1時間目に自分が書いた文章と本時まで書き終えたレポートを読み比べ、記述状況の変化を確認する。</p> <p>(3)まとめ (5分)</p> | | <p>○</p> <p>指 (1)読み手は、次の点について点検し、よい点、改善点をドキュメントの記入欄に入力し、助言を行う。 ・実社会の中から、自分が実現したいことを考えて、題材を設定している。 ・題材の設定するために、様々な観点から複数の情報を集めている。 ・題材の設定するために、集めた情報を整理して必要なものを選び、活用している。</p> <p>評 (1) 他者の点検をもとに、推敲した文章、取組の状況を分析する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕「記述の分析」 【Google ドキュメント課題シート②への取組】</p> <p>評 (2) 題材の設定の際に、情報を集め、必要な情報を整理する取組の状況、自己の文章について、学習前後の変化を捉えていることを分析する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕「記述の分析」 【Google ドキュメント課題シート②への取組】</p> |
|---|---|---|--|---|

7 指導と評価の計画における評価方法の記載

- (1) 記述の点検：学習の中で記述された内容が評価規準を満たしているかどうかを、机間指導などにより「点検」する。「指導に生かす評価」に用いる。
- (2) 記述の確認：学習の中で記述された内容が評価規準を満たしているかどうかを、提出物などにより「確認」する。「記録に残す評価」に用いる。
- (3) 記述の分析：ノートや提出物などの「分析」を行うことにより、評価規準に照らして実現状況の高まりを評価する。「記録に残す評価」に用いる。

論理国語

「自分が『書きたい』テーマを設定する力を身に付けよう」

ワークシート①

2年 組 番)

(

《学習全体の目標》

- ① 情報を整理する方法について理解し、活用できるようにしよう。
- ② 実社会や学習を深めたい事柄について、様々な立場や論点をふまえて情報を集め、整理して、目的や意図に応じた題材(テーマ)を設定しよう。
- ③ レポートを書く活動を通して、自分の視点をもって適切な題材(テーマ)を決めるための手順や考え方を身に付けよう。

《ワークシート①の目標》

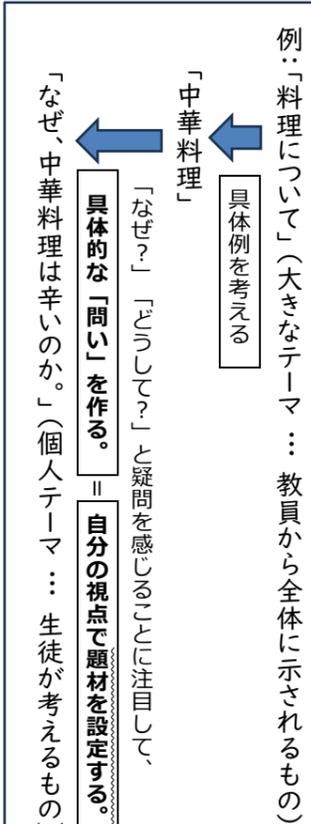
レポートを書く際に、個人テーマ(書きたいこと)を設定する方法を学習しよう。

1 はじめに確認しよう

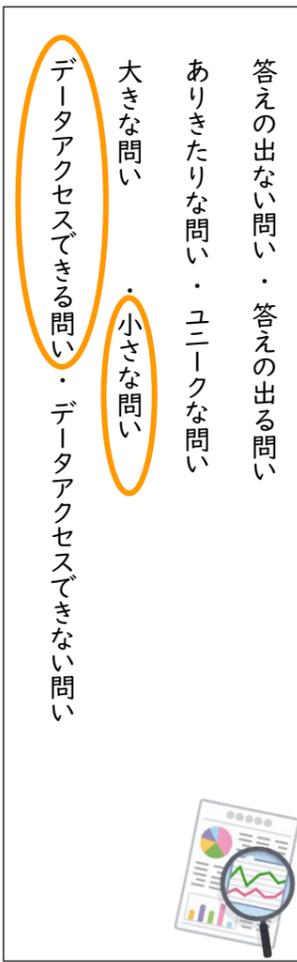
◎この単元における「レポート」とは

- (社会)で起きている様々な出来事に注目し、自分でテーマを設定して、客観的な(事実)を用いて考察し、(第三者)に伝える文章。

◎レポートを書き始めるときに、何をすればよいのか。



(2)「問い」の作り方には、いくつもの種類がある。



◎「時間目的のつぎぎ...」よりよく生きることで「よい状態であること」とは、ウェルビーイング。「」という言葉で表すことができる。

よい 状態

well + being

WHOによると、
個人や社会のよい状態という意味。
「Well-being is a positive state experienced by individuals and societies.」

《個人のウェルビーイングを測る5つの視点》

| | |
|-------------------|--------------|
| キャリア・ウェルビーイング | 仕事への納得感・やりがい |
| ソーシャル・ウェルビーイング | 他者との深い関わり、愛情 |
| ファイナンシャル・ウェルビーイング | 経済的な満足、充実 |
| フィジカル・ウェルビーイング | 心と体の健康、エネルギー |
| コミュニティー・ウェルビーイング | 地域社会とのつながり |

参考:ベネッセ ウェルビーイング Lab「ウェルビーイングってなんだろう」より

2 個人テーマを設定する練習をしよう

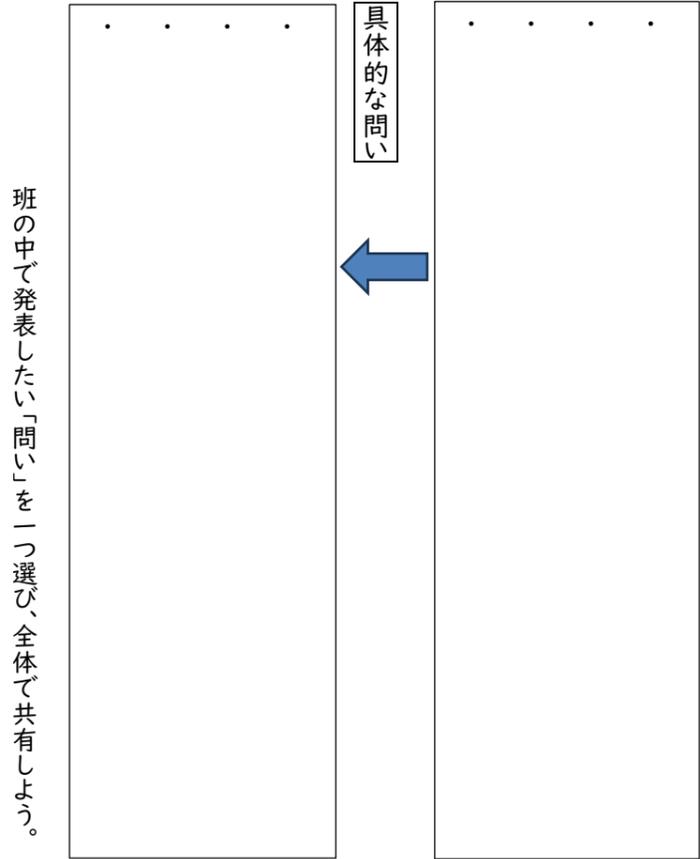
- (1) 私たちは、身近な生活の中で、どのような疑問を感じ、それをもとに「問い」を作ることができるだろうか。
- 指定された【大きなテーマ】について、【具体例】を挙げ、インターネットを利用して情報を集めよう。調べた情報の中から、「なぜ?」「どうして?」「もっと知りたい」と感じたことに注目し、【具体的な問い【個人テーマ】】を考えてみよう。

【大きなテーマ】身近な生活における「○○」について

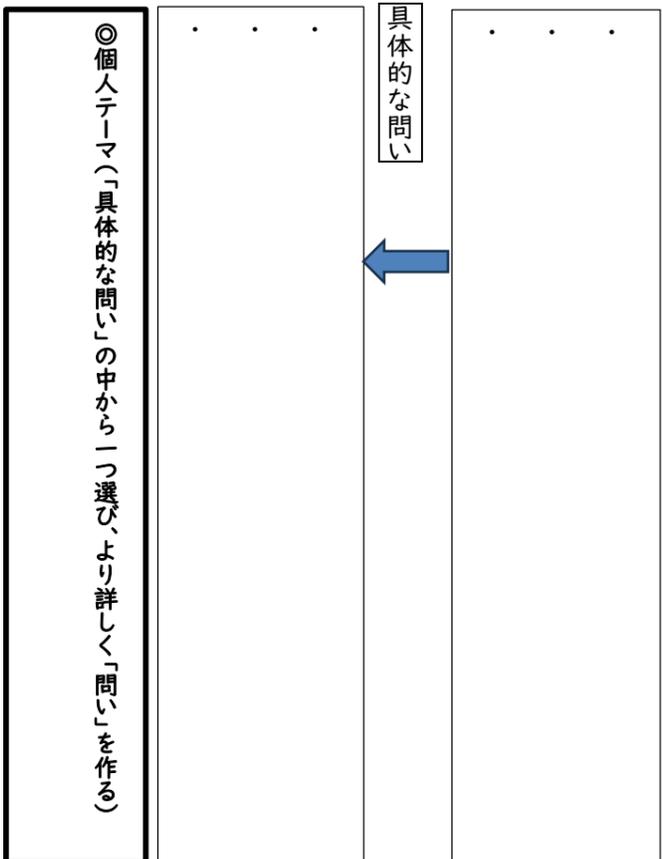
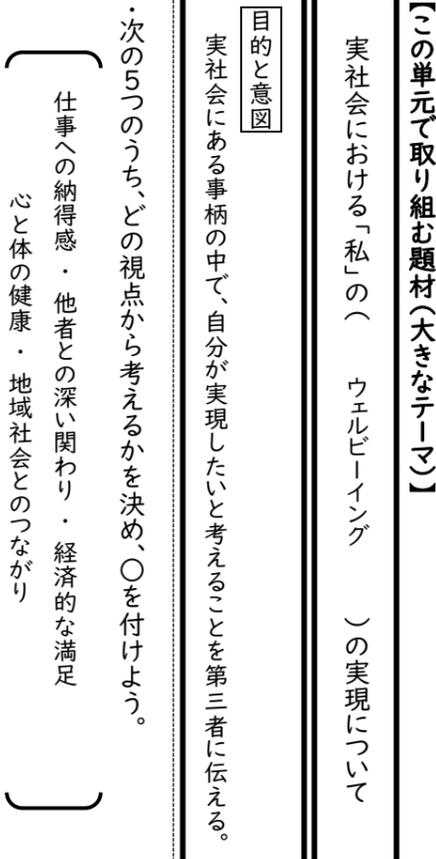
1 ~ 4 班 : 「SNSの利用」について

5 ~ 10 班 : 「書き言葉」について

具体例



3 個人テーマを仮設定しよう



論理国語 「自分が『書きたい』テーマを設定する力を身に付けよう」ワークシート③

2年 組 番)

① はじめに確認しよう

◎「個人テーマ」について

◻ 個人テーマに関して、集めたい・調べたい情報が挙げられているか。

◻ 集めたい・調べたい情報を採寸準備ができているか。

◎このワークシートで行うこと

◻ 個人テーマに関して、必要な情報を学校図書館の資料から探し、レポートに引用したい内容を記入する。↓ 2

◻ 集めた情報をもとに、個人テーマに関する自分の「主張」を考える。↓ 3

◻ 集めた情報から重要なものを選び、「主張」と「事実」をつなぐ「理由づけ」を考え、レポートのアウトライン(輪郭)を作成する。↓ 3

◻ 個人テーマに関して、必要な情報を学校図書館の資料から探し、レポートに引用したい内容を記入する。↓ 2

◻ 集めた情報をもとに、個人テーマに関する自分の「主張」を考える。↓ 3

◻ 集めた情報から重要なものを選び、「主張」と「事実」をつなぐ「理由づけ」を考え、レポートのアウトライン(輪郭)を作成する。↓ 3

② 個人テーマに関する必要な情報(「事実」)を集めよう

個人テーマに関する必要な情報(「事実」)を集め、レポートに引用したい内容等を枠内に記入しよう。

【筆者・書名(サイト名)など】

【出版社・出版年など】

(1)

(2)

③ レポートのアウトライン(輪郭)を作成しよう。

個人テーマを記入し、三角ロジックをふまえて「主張」、「事実」、「理由づけ」を考え、「結論」まで書こう。その後、同じ分野の班内でアウトライン全体を確認し合おう。

主張

「主張」と「事実」をつなぐ考えを書こう。

理由づけ①

理由づけ②

事実①

事実②

本論で扱った「事実」、「理由づけ」をもとに、個人テーマへの考察をまとめよう。



【大きなテーマ】実社会における「私」のウェルビーイングの実現について

【個人テーマ】(本設定)

【序論】個人テーマについて、自分の「主張」を書こう。

主張

【本論】

2で調べたことの中から特に重要な情報を選んで、「事実」として引用しよう。

「主張」と「事実」をつなぐ考えを書こう。

理由づけ①

理由づけ②

事実①

事実②

【結論】

本論で扱った「事実」、「理由づけ」をもとに、個人テーマへの考察をまとめよう。

《予告》次回から、Googleドキュメントの課題に取り組みます。



※所属校での実施の際には、冊子の状態のものを生徒に配付し、Google フォームへの入力も行った。「学習後アンケート」は、研究授業で扱った指導事項、学習活動に関する質問を扱った。

2年生・論理国語 学習前アンケート

2年生の皆さんへ

このアンケートでは、高校2年生の皆さんに、国語の授業における「書くこと」の活動について質問をし、皆さん自身が「書くこと」について、どのように考えているかを回答してもらいます。回答状況や授業での取り組みをもとに、「高校3年間で、論理的な文章を書く力を身に付けるには、どのような学習が必要か」という研究を進めていきます。ご協力をお願いします。

【回答の手順】を読み、設問の指示に従って、回答してください。

【回答の手順】

設問は、1～16まであります。

①はじめに、この冊子の設問3～11について、直接〇を書き込んで回答してください。(15分程度)

②終わったら、「論理国語」のクラスルーム内のGoogleフォームを開き、設問1～16までのすべての設問に回答してください。(15分程度)

設問3～11については、①の回答どおりに番号を入力してください。

※この冊子は、回収します。※

2年__組__番

氏名 _____ 実施日 令和7年 8月 日()

マル

次の3～11について、設問の指示に従い、この冊子に直接〇を書き込んで回答してください。

回答終了後、同じ内容を論理国語のクラスルーム上のGoogleフォームに入力してください。

3 あなたは、文章を書くことについて、どのように思っていますか。自分の気持ちに最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

| 選択肢 | 回答欄 |
|--------------|-----|
| ① 得意だ | |
| ② どちらかという得意だ | |
| ③ どちらかという苦手だ | |
| ④ 苦手だ | |

4 あなたは、文章を書くときに、「何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くか」を考え、「題材(テーマ)を決めること」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|---|-----|
| ① 日常生活で直接経験したこと、学習したこと、友人や家族から聞いたことの中から題材を決める。 | |
| ② 地域社会の話題、テレビや新聞などを通して伝えられることなど社会生活全般の中から題材を決める。 | |
| ③ 地域社会の話題、テレビや新聞などを通して伝えられることなど社会生活全般の中から題材を決める。 | |
| ④ 実社会 ^{※1} の中から、それが社会にとって役立つものか、どのように報告するかを考えて、題材を決める。 | |
| ⑤ 実社会の事情や、これから専門的に学習を深めたいと考えたことの中から、題材を決める。 | |
| ⑥ ④に加えて、ある立場に賛成か反対かなど、書き手としての立場や論じたい点など、様々な観点から情報を集め、整理して、題材を決める。 | |

〈言葉の意味〉※1 実社会 … 実際の社会のこと。



5 あなたは、文章を書くときに、「必要な情報を集めること」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 本、新聞、雑誌、テレビやインターネットなどを活用して、集める。 | |
| ② ①に加え、図書館などの公共施設を利用して幅広く情報を集め、インタビューやアンケートで実際に入から声を集めるなど、様々な方法を用いて集める。 | |
| ③ 集めた情報が客観的 ^{※2} であるか、信頼できるものかを確認し、どこから発信された情報なのかも注意を向けて、自分の考えを支える根拠として、適切な情報を集める。 | |
| ④ テーマに対して、個人的な体験や知識だけではなく、フィールドワーク ^{※3} を実施したり、複数の媒体 ^{※4} を活用して、情報を幅広く集める。 | |
| ⑤ その情報が正しいか、主張を支える根拠として適切か、ほかにも有効な情報はないか、どこから発信された情報なのかなどから、確かな情報であると判断して集める。 | |

〈言葉の意味〉

※2 客観的 … 自分だけでなく、誰の目にもそのように見える様子。

※3 フィールドワーク … 実際に現地まで行き、調査をすること。

※4 媒体 … 情報を伝えるもの、メディア。

6 あなたは、文章を書くときに、「集めた情報から自分の文章に必要な内容を選ぶ」ことについて、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|---|-----|
| ① 集めた材料を比べる、分ける、関係付けるなどして情報を整理し、伝えたいことを明確にする。 | |
| ② ①に加えて、書く目的に合わせて材料を整理し、自分の考えをまとめ、伝えたいことを明確にする。 | |
| ③ 情報を慎重に取捨選択 ^{※5} し、場合によっては再び情報を収集し直す。 | |
| ④ 情報が妥当 ^{※6} なものか、信頼できるものかを吟味 ^{※7} し、根拠として適切かどうかを判断して用いる。特に、インターネットの情報を材料にする際には、著作権や個人情報の取り扱いに十分注意する。 | |
| ⑤ 調査などによって集めた情報から、自分の立場や論じたい点を明確にし、主張を支える適切な根拠をそろえる。 | |

〈言葉の意味〉

※5 取捨選択 … 必要なものだけを選び、必要でないものを捨てること。

※6 妥当 … よくあてはまっていること。 ※7 吟味 … 内容などがよいかどうか、確かめること。



7 あなたは、文章を書くときに、「文章の構成を考えること」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 課題を述べる段落、情報について分析する段落、自分の考えを述べる段落など、段落の役割を意識して、文章の構成や展開を考える。 | |
| ② AとBを対比する段落、結論と根拠の段落、おおまかな説明と詳しい説明の段落など、段落と段落の関係を明確にし、「序論-本論-結論」などの文章の構成や展開を工夫する。 | |
| ③ 伝えたい内容に合わせて文章の種類 ^{※8} を選び、様々な読み手を説得できるように論理の展開を考えて ^{※9} 、文章の構成を工夫する。 | |
| ④ 読み手に理解してもらえように、論理の展開、情報の量や重要度などを考えて、文章の展開や構成を工夫する。 | |
| ⑤ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれる ^{※10} ことを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。 | |

〈言葉の意味〉

※8 文章の種類 … 例えば、文学的な文章として物語、小説、随筆など、説明的な文章として説明、解説など、実用的な文章として記録、報告、手紙などがある。

※9 論理の展開を考えて … 結論や主張を導くための筋道の通った考えの進め方について考えること。

※10 批判的に読まれる … 様々な考えをもつ読み手が、その文章の根拠や論拠、構成や論理の展開をよく考えて読むこと。



8 あなたは、文章を書くときに、「自分の考えを相手に伝わりやすくまとめること」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 自分の考えが確かな事実に基づいたものであるかを確認し、根拠を明確にする。 | |
| ② ①に加えて、根拠が自分の考えを支えるものかどうかを検討 ^{※11} し、根拠の適切さを考える。 | |
| ③ 資料を引用する際に、客観性や信頼性の高い資料を選び、自分の考えの根拠として適切かどうかを検討したり、資料の内容と自分の考えがどのように関連するののかも説明する。 | |
| ④ 自分の考えや事柄が的確 ^{※12} に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を考える。 | |
| ⑤ 一つの事柄を多面的 ^{※13} に見たり、他の視点からも考えたりして、自分の考えを見直し、根拠や論拠 ^{※14} について吟味を重ねたうえで、主張を明確にする。 | |

〈言葉の意味〉

※11 検討 … いろいろな事情を調べて、どうしたらよいか考えること。

※12 的確に … たしかで、間違いない様子。

※13 多面的 … 分野・方面が多い様子。

※14 論拠 … 主張がなぜ成り立つのかを説明するための根拠と理由づけのこと。



9 あなたは、文章を書くときに、「自分の考えを相手に伝わりやすい言葉や表現で書くこと」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、複数の事例や専門家の意見を引用するなどの根拠が必要であることを理解して書く。 | |
| ② 説明や具体例を加えて説得力をもたせ、表現の効果をj考えて描写したりするなど、工夫を積み重ねて、自分の考えがよりよく伝わるように書く。 | |
| ③ ①②に加えて、表現の仕方 ^{※15} を考え、工夫して書く。 | |
| ④ 文章の種類や文体、段落などの表現の仕方を工夫して書く。 | |
| ⑤ 文章の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ ^{※16} 、自分の主張が的確に伝わる文章になるように、工夫して書く。 | |

〈言葉の意味〉

※15 表現の仕方 … 文体、語句や文末表現の工夫、述べ方、比喩などの表現技法など、記述に関わる表現全般のこと。

※16 文章全体の論理の明晰さを確かめる … 文章全体を通じて、論理が分かりやすく展開されているかどうかを確かめること。



10 あなたは、文章を書くときに、「自分が書いた文章全体を整えること」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 読み手の立場に立って、文字の書き表し方や語句が適切か、文や段落の長さ・役割・順序・語順などが適切かどうかを確かめて、文章を整える。 | |
| ② ①に加えて、自分の考えを伝えたり、印象づけたりするうえで、書いた文章の表現がどのような効果を生んだかなどを確かめて、文章全体を整える。 | |
| ③ ①②に加えて、客観的な視点から目的や意図に合った表現で書けているかなどを確かめ、文章全体を整える。 | |
| ④ 書いた文章を読み直し、読み手の立場に立って、目的や意図に合うように書かれているかなどについて確かめ、文章全体を点検し、必要に応じて修正する。 | |
| ⑤ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整える。 | |



11 あなたは、文章を書くときに、「自分の文章を読んだ相手からの助言(アドバイス)を次の学習にいかすこと」について、どのような取り組みをしたことがありますか。**当てはまるものをすべて選んでください。**

| 選択肢 | 回答欄 |
|--|-----|
| ① 根拠の明確さなどについて、自分の文章のよい点や改善点を見つける。 | |
| ② 表現の工夫とその効果などについて、自分の文章のよい点や改善点を見つける。 | |
| ③ 論理の展開などについて、自分の文章のよい点や改善点を見つけ、次の自分の文章を書く活動へいかす具体的な視点を得る。 | |
| ④ 自分の文章の特に優れた点や改善すべき課題を客観的な視点から改めて捉え直す。 | |
| ⑤ ④に加えて、推敲する活動にいかすための具体的な視点を心得、自分が書いた文章が後々まで残る可能性を考え、書き手としての立場、読み手としての立場の両方の視点から、自分の文章を捉え直す。 | |

④ 設問3～11は、ここまでです。

論理国語のクラスルームにあるGoogleフォームに回答をお願いします。

1～2のクラス、出席番号の入力後、3～11には、この冊子で回答したとおりに回答を選択してください。その後、次の設問に回答してください。

12 あなたは、これまでどのような場面で文章を書きましたか。

13 あなたは、これまでどのような手段で文章を書きましたか。(手書き、スマホ、PC等)

14 あなたは、文章を書くときに、どのようなことに「困ったな」、「難しいな」と思いますか。

15 あなたは、今後、どのような場面で文章を書きますか。

16 15の場で、あなたは、どのような文章を書けるようになりますか。



表1 「書くこと」の指導事項の系統表

| 学校段階「科目」 学習過程 | 中学校 第3学年 「国語」 | 高等学校 共通必修科目 「現代の国語」(2単位) | 高等学校 選択科目 「論理国語」(4単位) |
|------------------|---|---|--|
| 題材の設定 | ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。 | ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 | ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。 |
| 情報の収集 | | | イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。 |
| 内容の検討 | | | |
| 構成の検討 | イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。 | イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。 ※「中学校第3学年のイ及びウを受けて、」とある。 | ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。 |
| 考えの形成 | ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。 | ウ ① 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ② ※「中学校第3学年のイ及びウを受けて、」とある。 | エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。 |
| 記述 | | | オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。 |
| 推敲 | エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 | エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 | カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 |
| 共有 | オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 | | |

表2 「書くこと」の学習段階の6ステップ表

| 学校段階 科目 | 中学校 第3学年 「国語」 | | 高等学校 共通必修科目 「現代の国語」(2単位) | | 高等学校 選択科目 「論理国語」(4単位) | | | |
|--------------|--|---|--|---|---|---|---|--|
| ステップ 学習過程 | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | ステップ4 | ステップ5 | ステップ6 | ステップ 育てる力 | |
| 題材の設定 | 【ア①】 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすること。 | 【ア②】 目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。 | 【ア①】 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、伝えたいことを明確にすること。 | 【ア②】 目的や意図に応じて、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。 | 【ア①】 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。 | 【ア②】 書き手の立場や論点など様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。 | I 書き手として題材を設定し、情報を適切に扱う | |
| 情報の収集 | | | | 【イ①】 情報の妥当性や信頼性を吟味すること。 | 【イ②】 自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。 | | | |
| 内容の検討 | | | | | | | | |
| 構成の検討 | 【イ①】 文章の種類を選択し、文章の構成を工夫すること。 | 【イ②】 多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。 | 【イ①】 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えること。 | 【イ②】 読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 | 【ウ①】 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成を工夫すること。 | 【ウ②】 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、論理の展開を工夫すること。 | II 読み手にむけて、文章の構成・論理の展開を工夫し、自分の考えを明確・的確に伝える | |
| 考えの形成 | 【ウ①】 表現の仕方を考えたり、自分の考えを分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。 | 【ウ②】 資料を適切に引用したりするなど、自分の考えを分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。 | 【ウ①】 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方を工夫すること。 | 【ウ②】 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。 | 【エ①】 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、主張を明確にすること。 | 【エ②】 根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。 | | |
| 記述 | | | | | 【オ①】 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめること。 | 【オ②】 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。 | | |
| 推敲 | 【エ①】 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめること。 | 【エ②】 文章全体を整えること。 | 【エ①】 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 | 【エ②】 読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すこと。 | 【カ①】 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えること。 | 【カ②】 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 | III 他者意識・自己理解を深める | |
| 共有 | 【オ①】 論理の展開などについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 | 【オ②】 読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 | | | | | | |

表3 『書くこと』の系統的な指導計画表(基本型)

| 学校段階「科目」 授業時数 | 中学校 第3学年「国語」 | | 高等学校 共通必修科目「現代の国語」(2単位) 30~40時間程度/1年 | | 高等学校 選択科目「論理国語」(4単位) 50~60時間程度/2・3年 | | 授業 時数 | ステップ 育てる力 |
|------------------|---|---|---|---|--|--|----------|---|
| 学習過程 | ステップ1 [目指す姿] 中学校段階の「書くこと」の基礎を学習している。 | ステップ2 [目指す姿] 中学校段階の「書くこと」の基礎が身に付いている。 | ステップ3 [目指す姿] 高等学校段階の「書くこと」の基礎について、 学習している。 | ステップ4 [目指す姿] 高校段階の「書くこと」の基礎が身に付いている。 | ステップ5 [目指す姿] 「論理的な文章を書く力」について、学習している。 | ステップ6 [目指す姿] 「論理的な文章を書く力」が身に付いている。 | 授業 時数 | ステップ 育てる力 |
| 題材の設定 | 【中学・ア①】 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くかなどを具体的に考える。 □地域社会の中で見聞きしたことの中から題材を決める。 □テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることの中から題材を決める。 | 【中学・ア②】 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □多種多様な情報から、自分の考えを支える根拠として客観性や信頼性の高い適切な情報を用いる。 □情報を取捨選択し、場合によっては再度収集し直す。 □情報の発信者として責任のある表現を心掛ける。 | 【現国・ア①】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □目的や意図に応じて、その題材が社会的に有益なものかを考える。 □目的や意図に応じて、どのような形で還元するかなどを考える。 □実体験や他教科等での学習経験と関連付けて適切に選択する。 | 【現国・ア②】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □個人の経験や知識だけを情報とするのではなく、複数の媒体を活用し、情報を幅広く集める。 □集めた情報の妥当性(正しい、根拠として適切)を検討する。 □集めた情報の信頼性(発信元などから確かなものである等)を出典の示し方から確認する。 | 【論国・ア①】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決める □興味・関心をもち、更に学び深めようと考えたこと、課題として意識し解決策を考えたことから題材を見いだす。 □高等学校卒業後も学び深めたいと考えたことなどから題材を見いだす。 | 【論国・ア②】 題材の設定のために情報を収集、整理する □多種多様な情報の中から、目的や課題に応じた情報を適切に収集する。 □書く目的や意図に応じて、取捨選択、分類、情報と情報の関係を見いだして整理する。 | 時間 | I 書き手として題材を設定し、情報を適切に扱う |
| 情報の収集 | | | | | 【論国・イ①】 情報の妥当性や信頼性を吟味する □情報の妥当性、信頼性について、主張を支える根拠として適切か、最も有効かなどを検討する。 □書き手の立場や発信された文脈を適切に踏まえたものかどうかを詳しく検討する。 関連:[知・技](2)情報と情報の関係・ア | 【論国・イ②】 主張を支える根拠をそろえる □収集した情報や資料をどのように分析・解釈したかを整理し、どの立場で論じるか、論じたいこととなる問題点を明確にする。 □主張に対する一つ一つの根拠の整合性を確認する。 関連:[知・技](2)情報と情報の関係・ア | 時間 | |
| 内容の検討 | | | | | 【論国・ウ①】 読み手を説得する(根拠、構成の工夫) □読み手にとって納得できる根拠、構成や展開をする。 □想定される反論や異論を踏まえて、自らの論を確かなものにする。 | 【論国・ウ②】 読み手を説得する(論理の展開、構成の工夫) □主張の根拠となる情報を取捨選択し、「問い」から「答え」に至る筋道が明確になる構成を考える。 □段落と段落の関係、接続語句を効果的に使用して構成を考える。 関連:[知・技](1)文や文章・エ or(2)情報の整理・イ | 時間 | |
| 構成の検討 | 【中学・イ①】 読み手の理解を得る(文章の種類) □文章の種類を選択する際に、書く目的や意図に応じて伝えたいことを表現するのに適したものかどうかを判断する。 | 【中学・イ②】 読み手の理解を得る(論理の展開、構成の工夫) □どのような読み手からも一定の理解を得られるように、主張を導くための筋道の通った考えの進め方をする。 | 【現国・イ①】 読み手の理解を得る(論理の展開、構成の工夫) □自分の主張を筋道立てて、読み手に正しく捉えてもらうために、結論や主張を導くための論理の展開を考える。 | 【現国・イ②】 読み手の理解を得る(情報の分量、構成の工夫) □読み手の関心や知識などを想定し、情報の多寡や重要度の高さ、情報の種類などを考える。 関連:[知・技](1)文や文章・オ | 【論国・ウ①】 読み手を説得する(根拠、構成の工夫) □読み手にとって納得できる根拠、構成や展開をする。 □想定される反論や異論を踏まえて、自らの論を確かなものにする。 | 【論国・ウ②】 読み手を説得する(論理の展開、構成の工夫) □主張の根拠となる情報を取捨選択し、「問い」から「答え」に至る筋道が明確になる構成を考える。 □段落と段落の関係、接続語句を効果的に使用して構成を考える。 関連:[知・技](1)文や文章・エ or(2)情報の整理・イ | 時間 | |
| 考えの形成 | 【中学・ウ①】 自分の考えを分かりやすく伝える(表現の仕方工夫) □目的や意図、題材などに合わせて、適切な表現の仕方を選び、外部の資料を引用することで、自分の考えをより分かりやすく伝える工夫をする。 □文章の種類に応じて、見出しや番号、注釈を付ける。 | 【中学・ウ②】 自分の考えを分かりやすく伝える(資料の選び方、引用の仕方) □客観性や信頼性の高い資料を選び、自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかを検討する。 □出典を明示し、適切な量の引用を行う。 | 【現国・ウ①】 自分の考えや事柄を的確に伝える(根拠の示し方の工夫) □読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で、最もふさわしい根拠の示し方を選ぶ。 □情報の種類(自分の経験、他者の経験、新聞などの情報)を検討する。 □示す方法(文章、図表、グラフ)を選ぶ。 | 【現国・ウ②】 自分の考えや事柄を的確に伝える(説明の仕方、表現の仕方工夫) □「全体と細部」、「箇条書きやキーワードによる手順」、「主張・根拠・論拠」などの説明の仕方を、自分の考えや伝えたい事柄に合わせて組み合わせる。 □書く目的を実現するのにふさわしい文章の種類、文体、語句を用いる。 | 【論国・エ①】 自分の主張を明確にする(多面的・多角的な視点) □一つの事柄を多面的に見たり多角的に考えたりして、自分の考えを相対化し、適切な形にまとめる。 | 【論国・エ②】 自分の主張を明確にする(論拠や根拠の吟味) □自分の考えの拠り所となる客観的な事実や情報の正誤、理由付けの適否などを検討する。 □妥当性を裏付ける客観性や信頼性の高い資料を用いて、根拠を示し、自分の考えをまとめる。 関連:[知・技](2)情報の整理(推論の仕方)・ウ | 時間 | II 読み手において、文章の構成・論理の展開を工夫し、自分の考えを明確・的確に伝える |
| 記述 | | | | | 【論国・オ①】 表現の仕方や段落の構造を吟味する(論理の明晰さ) □接続表現、対比・類比、引用などの表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝え、印象付けているかを検討する。 □段落の構造について、考えの筋道を反映して組立てる。 □明快な筋道で論理を展開している。 関連:[知・技](1)文や文章・ウ | 【論国・オ②】 表現の仕方や段落の構造を吟味する(主張が的確に伝わる) □書く目的を実現するのにふさわしい文章の形態や文体、語句を選び、言葉遣いなどを工夫する。 □自分の主張の根拠、論証の過程を明確に示し、批判的な読みにも堪えるよう注意を払う。 関連:[知・技](1)文や文章・エ | 時間 | |
| 推敲 | 【中学・エ①】 目的や意図に応じているかを確認する(表現) □文章を書く目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認する。 | 【中学・エ②】 目的や意図に応じて整える(表現) □読み手の立場に立った客観的な視点から、目的や意図に応じた表現に整える。 | 【現国・エ①】 文章全体を整える(目的や意図) □文章を俯瞰して読み直し、読み手の立場に立って、目的や意図に応じて書かれているかなどを点検する。 | 【現国・エ②】 自分の文章の良い点や課題を見いだす(他者からの助言) □他者から助言や感想を得て、自分の文章の特に優れた点や改善すべき課題を客観的な視点から認識する。 □相互評価の際には、意図、表現、情報や主張の妥当性などの根拠を示し合う。 □書き手との関係性を踏まえた上で、助言を行う。 | 【論国・カ①】 文章全体を整える(構成、展開、表現、主張) □論理の構成や展開を見直し、主張を一貫した流れに沿って整理しながら明確に表現する。 □情報伝達が効果的に行われているかを見直し、読み手に伝わりやすい表現の工夫をする。 □様々な読み手の立場に立って、客観的な視点から検討する。 □論証の的確さ、適切さを確認する。 | 【論国・カ②】 自分の文章の特長や課題を捉え直す(構成、展開、表現、他者からの助言) □読み手からの助言、自己評価や総合評価を通して自分の文章のよさを確認したり課題を発見し、自分の表現に役立てる。 □自らの書く活動や、推敲する活動に生かすための具体的な視点を得る。 □書いたものが後々まで残る可能性を考え、書き手と読み手それぞれの立場で自分の文章を捉え直す。 | 時間 | III 他者意識・自己理解を深める |
| 共有 | 【中学・オ①】 自分の文章の良い点や改善点を見いだす(論理の展開) □書いた目的や意図に照らして、読み手は納得したか、どのような論理の展開のためかなどについて検討する。 | 【中学・オ②】 自分の文章の良い点や改善点を見いだす(読み手からの助言) □どのように改善すると良いかなど、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得る。 | | | | | 時間 | |

表3 『書くこと』の系統的な指導計画表(所属校で想定される活用例)

| 学校段階と科目 | 中学校 第3学年「国語」 | | 高等学校 共通必修科目「現代の国語」(2単位) 30~40時間程度/1年 | | 高等学校 選択科目「論理国語」(4単位) 50~60時間程度/2・3年 | | |
|---------|---|---|---|---|--|--|-------------------|
| ステップ | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | ステップ4 | ステップ5 | ステップ6 | ステップ |
| 学習過程 | 【目指す姿】 中学校段階の「書くこと」の基礎を学習している。 | 【目指す姿】 中学校段階の「書くこと」の基礎が身に付いている。 | 【目指す姿】 高等学校段階の「書くこと」の基礎について、学習している。 | 【目指す姿】 高校段階の「書くこと」の基礎が身に付いている。 | 【目指す姿】 「論理的な文章を書く力」について、学習している。 | 【目指す姿】 「論理的な文章を書く力」が身に付いている。 | 授業 時間 |
| 題材の設定 | 【中学・ア①】 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くかなどを具体的に考える。 □地域社会の中で見聞きしたことの中から題材を決める。 □テレビや新聞などの様々な媒体を通じて伝えられることの中から題材を決める。 | 【中学・ア②】 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □多種多様な情報から、自分の考えを支える根拠として客観性や信頼性の高い適切な情報を用いる。 □情報を取捨選択し、場合によっては再度収集し直す。 □情報の発信者として責任のある表現を心掛ける。 | 【現国・ア①】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □目的や意図に応じて、その題材が社会的に有益なものかを考える。 □目的や意図に応じて、どのような形で還元するかなどを考える。 □実体験や他教科等での学習経験と関連付けて適切に選択する。 | 【現国・ア②】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決め、伝えたいことを明確にする □個人の経験や知識だけを情報とするのではなく、複数の媒体を活用し、情報を幅広く集める。 □集めた情報の妥当性(正しい、根拠として適切)を検討する。 □集めた情報の信頼性(発信元などから確かなものである等)を出典の示し方から確認する。 | 【論国・ア①】 目的や意図に応じて、実社会の中から題材を決める □興味・関心をもち、更に学び深めようと考えたこと、課題として意識し解決策を考えたいことから題材を見いだす。 □高等学校卒業後も学び深めたいと考えたことなどから題材を見いだす。 | 【論国・ア②】 題材の設定のために情報を収集、整理する □多種多様な情報の中から、目的や課題に応じた情報を適切に収集する。 □書く目的や意図に応じて、取捨選択、分類、情報と情報の関係を見いだして整理する。 関連:[知・技](2)情報の整理・イ | 5 5 6 時間 |
| 情報の収集 | | | | | 【論国・イ①】 情報の妥当性や信頼性を吟味する □情報の妥当性、信頼性について、主張を支える根拠として適切か、最も有効かなどを検討する。 □書き手の立場や発信された文脈を適切に踏まえたものかどうかを詳しく検討する。 関連:[知・技](2)情報と情報の関係・ア | 【論国・イ②】 主張を支える根拠をそろえる □収集した情報や資料をどのように分析・解釈したのかを整理し、どの立場で論じるか、論じたいことの中点となる問題点を明確にする。 □主張に対する一つ一つの根拠の整合性を確認する。 関連:[知・技](2)情報と情報の関係・ア | 5 5 6 時間 |
| 内容の検討 | | | | | 【論国・ウ①】 読み手を説得する(根拠、構成の工夫) □読み手にとって納得できる根拠、構成や展開をする。 □想定される反論や異論を踏まえて、自らの論を確かなものにする。 | 【論国・ウ②】 読み手を説得する(論理の展開、構成の工夫) □主張の根拠となる情報を取捨選択し、「問い」から「答え」に至る筋道が明確になる構成を考える。 □段落と段落の関係、接続語句を効果的に使用して構成を考える。 関連:[知・技](1)文や文章・エ or(2)情報の整理・イ | 5 5 6 時間 |
| 構成の検討 | 【中学・イ①】 読み手の理解を得る(文章の種類) □文章の種類を選択する際に、書く目的や意図に応じて伝えたいことを表現するのに適したものかどうかを判断する。 | 【中学・イ②】 読み手の理解を得る(論理の展開、構成の工夫) □どのような読み手からも一定の理解を得られるように、主張を導くための筋道の通った考えの進め方を考える。 | 【現国・イ①】 読み手の理解を得る(論理の展開、構成の工夫) □自分の主張を筋道立てて、読み手に正しく捉えてもらうために、結論や主張を導くための論理の展開を考える。 | 【現国・イ②】 読み手の理解を得る(情報の分量、構成の工夫) □読み手の関心や知識などを想定し、情報の多寡や重要度の高さ、情報の種類などを考える。 関連:[知・技](1)文や文章・オ | 【論国・エ①】 自分の主張を明確にする(多面的・多角的な視点) □一つの事柄を多面的に見たり多角的に考えたりして、自分の考えを相対化し、適切な形にまとめる。 | 【論国・エ②】 自分の主張を明確にする(論拠や根拠の吟味) □自分の考えの拠り所となる客観的な事実や情報の正誤、理由付けの適否などを検討する。 □妥当性を裏付ける客観性や信頼性の高い資料を用いて、根拠を示し、自分の考えをまとめる。 関連:[知・技](2)情報の整理(推論の仕方)・ウ | 3 3 4 時間 |
| 考えの形成 | 【中学・ウ①】 自分の考えを分かりやすく伝える(表現の仕方の工夫) □目的や意図、題材などに合わせて、適切な表現の仕方を選び、外部の資料を引用することで、自分の考えをより分かりやすく伝える工夫をする。 □文章の種類に応じて、見出しや番号、注釈を付ける。 | 【中学・ウ②】 自分の考えを分かりやすく伝える(資料の選び方、引用の仕方) □客観性や信頼性の高い資料を選び、自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかを検討する。 □出典を明示し、適切な量の引用を行う。 | 【現国・ウ①】 自分の考えや事柄を的確に伝える(根拠の示し方の工夫) □読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で、最もふさわしい根拠の示し方を選ぶ。 □情報の種類(自分の経験、他者の経験、新聞などの情報)を検討する。 □示す方法(文章、図表、グラフ)を選ぶ。 | 【現国・ウ②】 自分の考えや事柄を的確に伝える(説明の仕方、表現の仕方の工夫) □「全体と細部」、「箇条書きやキーワードによる手順」、「主張・根拠・論拠」などの説明の仕方を、自分の考えや伝えたい事柄に合わせて組み合わせる。 □書く目的を実現するのにふさわしい文章の種類、文体、語句を用いる。 | 【論国・オ①】 表現の仕方や段落の構造を吟味する(論理の明晰さ) □接続表現、対比・類比、引用などの表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝え、印象付けているかを検討する。 □段落の構造について、考えの筋道を反映して組立てる。 □明快な筋道で論理を展開している。 関連:[知・技](1)文や文章・ウ | 【論国・オ②】 表現の仕方や段落の構造を吟味する(主張が的確に伝わる) □書く目的を実現するのにふさわしい文章の形態や文体、語句を選び、言葉遣いなどを工夫する。 □自分の主張の根拠、論証の過程を明確に示し、批判的な読みにも堪えるよう注意を払う。 関連:[知・技](1)文や文章・エ | 2 2 3 時間 |
| 記述 | | | | | 【論国・カ①】 文章全体を整える(構成、展開、表現、主張) □論理の構成や展開を見直し、主張を一貫した流れに沿って整理しながら明確に表現する。 □情報伝達が効果的に行われているかを見直し、読み手に伝わりやすい表現の工夫をする。 □様々な読み手の立場に立って、客観的な視点から検討する。 □論証の的確さ、適切さを確認する。 | 【論国・カ②】 自分の文章の特長や課題を捉え直す(構成、展開、表現、他者からの助言) □読み手からの助言、自己評価や総合評価を通して自分の文章のよさを確認したり課題を発見し、自分の表現に役立てる。 □自らの書く活動や、推敲する活動に生かすための具体的な視点を得る。 □書いたものが後々まで残る可能性を考え、書き手と読み手それぞれの立場で自分の文章を捉え直す。 | 6 6 7 時間 |
| 推敲 | 【中学・エ①】 目的や意図に応じているかを確認する(表現) □文章を書く目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認する。 | 【中学・エ②】 目的や意図に応じて整える(表現) □読み手の立場に立った客観的な視点から、目的や意図に応じた表現に整える。 | 【現国・エ①】 文章全体を整える(目的や意図) □文章を俯瞰して読み直し、読み手の立場に立って、目的や意図に応じて書かれているかなどを点検する。 | 【現国・エ②】 自分の文章の良い点や課題を見いだす(他者からの助言) □他者からの助言や感想を得て、自分の文章の特に優れた点や改善すべき課題を客観的な視点から認識する。 □相互評価の際には、意図、表現、情報や主張の妥当性などの根拠を示し合う。 □書き手との関係性を踏まえた上で、助言を行う。 | 【論国・キ①】 文章全体を整える(構成、展開、表現、主張) □論理の構成や展開を見直し、主張を一貫した流れに沿って整理しながら明確に表現する。 □情報伝達が効果的に行われているかを見直し、読み手に伝わりやすい表現の工夫をする。 □様々な読み手の立場に立って、客観的な視点から検討する。 □論証の的確さ、適切さを確認する。 | 【論国・キ②】 自分の文章の特長や課題を捉え直す(構成、展開、表現、他者からの助言) □読み手からの助言、自己評価や総合評価を通して自分の文章のよさを確認したり課題を発見し、自分の表現に役立てる。 □自らの書く活動や、推敲する活動に生かすための具体的な視点を得る。 □書いたものが後々まで残る可能性を考え、書き手と読み手それぞれの立場で自分の文章を捉え直す。 | 2 2 3 時間 |
| 共有 | 【中学・オ①】 自分の文章の良い点や改善点を見いだす(論理の展開) □書いた目的や意図に照らして、読み手は納得したか、どのような論理の展開のためかなどについて検討する。 | 【中学・オ②】 自分の文章の良い点や改善点を見いだす(読み手からの助言) □どのように改善すると良いかなど、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得る。 | | | | | 3 3 4 時間 |

Ⅰ
書き手として
題材を設定し、
情報を
適切に扱う

Ⅱ
読み手において、
文章の構成・
論理の展開を
工夫し、
自分の考えを
明確・的確に
伝える

Ⅲ
他者意識・
自己理解を
深める